



キ★ラ★め★き 宿 くだまつの宿

民泊の思い出集



おいでませ! 山口国体
君の一生けんめいに会いたい



おいでませ! 山口国体下松市実行委員会

目 次

CONTENTS

写真編

もくじ	1
あいさつ	2

3

文集編

下松市中村地区民泊協力会	4
米川民泊協力会	6
末武地区民泊協力会	8
笠戸島連合自治会民泊協力会	10
とよい民泊協力会	12
久保民泊協力会	14
花岡民泊協力会 A	16
花岡民泊協力会 B	18
きらぼし民泊協力会	20
東陽民泊協力会	22
西南民泊協力会	24
北地区民泊協力会	26

29

資料編

下松市中村地区民泊協力会	30
米川民泊協力会	34
末武地区民泊協力会	38
笠戸島連合自治会民泊協力会	42
とよい民泊協力会	46
久保民泊協力会	50
花岡民泊協力会 A	54
花岡民泊協力会 B	58
きらぼし民泊協力会	62
東陽民泊協力会	66
西南民泊協力会	70
北地区民泊協力会	74

79

民泊協力会一覧	80
チーム担当者	80
民泊実施状況一覧	81
民泊までの道のり（民泊経過概要）	82
成年女子試合結果	88

ごあいさつ

おいでませ！山口国体下松市実行委員会会長

下松市長 井川 成正



平成23年10月2日から5日までの4日間、下松スポーツ公園体育館を会場に東日本大震災復興支援第66回国民体育大会「おいでませ！山口国体」バスケットボール競技会（成年男子・成年女子）が開催されました。国内最高レベルのプレーを観戦するため、たくさんの方にご来場いただき、大盛会のうちに幕を閉じることができました。特に“キラめき くだまつの宿”にお迎えした成年女子の民泊では数多くの感動や感激が生まれました。私は、21世紀を「心の時代」と捉え、市政を進めておりますが、これにふさわしい国体であったと感じております。

民泊協力会の皆さんには、1年以上前から調理実習や拠点施設の美化活動、花いっぱい運動など多くのご協力を賜り、市内全域で、国体の開催機運を盛り上げていただきました。

栄養や衛生面に気を配った食事の準備、趣向を凝らした歓迎会や送別会、花いっぱいの地域、手作りの歓迎装飾など民泊協力会の人情あふれるおもてなしは、下松市の魅力を全国に発信するところとなりました。

また、競技会場では、受入チームのサポーターとなった民泊協力会の大応援団の声援が、大会を大いに盛り上げてくれました。

「応援がうれしかった。」、「下松のお父さん、お母さんのために頑張ろうと思った。」といった選手の声を目にし、民泊協力会の皆さんと選手との心温まる交流を本当にうれしく感じたところであります。

このような感動と感激の体験を記録し、永く後世に伝えるため、ここに、思い出集を発刊することといたしましたので、ご高覧いただければ幸いです。

民泊の取組を通じて得られた貴重な経験は、地域の絆を深め、人情あふれる心豊かなまちづくりを推進していく大きな力になるものと確信しております。

大きな感動と感激をいただいた民泊協力会の皆さんに心から敬意を表するとともに深く感謝を申し上げます。

キ★ラ★め★き くだまつの宿

写真編



下松市中村地区 民泊協力会

新潟県チーム
中村総合福祉センター



キラめき くだまつの宿 民泊の思い出





新潟県バスケットボール成年女子チーム



中村地区の皆さん
応援ありがとうございます。



米川 民泊協力会

愛媛県チーム
米川公民館



キラめき くだまつの宿 民泊の思い出



皆さんのやさしさに
普段通りの自分で過ごせました。



皆さんとの絆の輪が
私たちの1番の思い出です。



愛媛県バスケットボール成年女子チーム



米川地区の皆さん
応援ありがとう。



末武地区 民泊協力会

愛知県チーム
末武公民館



キラめき くだまつの宿 民泊の思い出



皆さんの優しさに触れて
本当に嬉しかったです。



愛知県バスケットボール成年女子チーム



末武地区の皆さん
応援ありがとうございます。



笠戸島連合自治会
民泊協力会

山口県チーム
笠戸島公民館



キラめき くだまつの宿 民泊の思い出





山口県バスケットボール成年女子チーム



笠戸島地区の皆さん
応援ありがとうございます。



とよい 民泊協力会

兵庫県チーム
豊井公民館



キラめき くだまつの宿 民泊の思い出



とよい地区のお父さん
とても素敵でした。





心のこもった食事が
活力になりました。



兵庫県バスケットボール成年女子チーム



とよい地区の皆さん
応援ありがとうございます。



久保 民泊協力会

北海道チーム
久保公民館



キラめき くだまつの宿 民泊の思い出





北海道バスケットボール成年女子チーム



久保地区の皆さん
応援ありがとうございます。



花岡 民泊協力会A

静岡県チーム
花岡公民館



キラめき くだまつの宿 民泊の思い出





素敵な思い出が
できました。



静岡県バスケットボール成年女子チーム



花岡地区の皆さん
応援ありがとうございます。



花岡 民泊協力会B

山形県チーム
花岡公民館



キラめき くだまつの宿 民泊の思い出



花岡地区の名前の通り
花いっぱい 歓迎しました。





山形県バスケットボール成年女子チーム



花岡地区の皆さん
応援ありがとうございます。



きらぼし 民泊協力会

熊本県チーム
下松中学校



キラめき くだまつの宿 民泊の思い出





温かい家庭で
我が家のようにリラックスできました。



熊本県バスケットボール成年女子チーム



きらぼしの皆さん
応援ありがとうございます。



東陽 民泊協力会

岡山県チーム
東陽コミュニティーセンター



キラめき くだまつの宿 民泊の思い出





東陽に来て人と人の絆の
大切さを改めて感じました。



岡山県バスケットボール成年女子チーム



東陽地区の皆さん
応援ありがとう。



西南 民泊協力会

東京都チーム
下松福祉センター



キラめき くだまつの宿 民泊の思い出



優しいお父さんに
つつい笑顔になりました。





東京都バスケットボール成年女子チーム



西南地区の皆さん
応援ありがとうございます。



北地区 民泊協力会

徳島県チーム
保健センター



キラめき くだまつの宿 民泊の思い出





民泊を経験して人々の温かさや
絆の大切さを感じました。



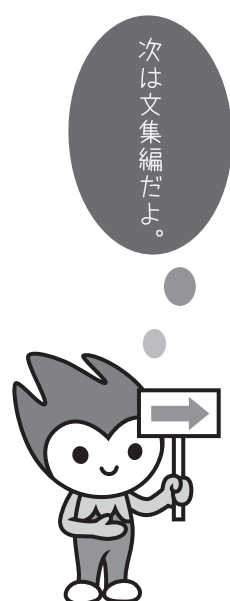
徳島県バスケットボール成年女子チーム



北地区の皆さん
応援ありがとうございます。

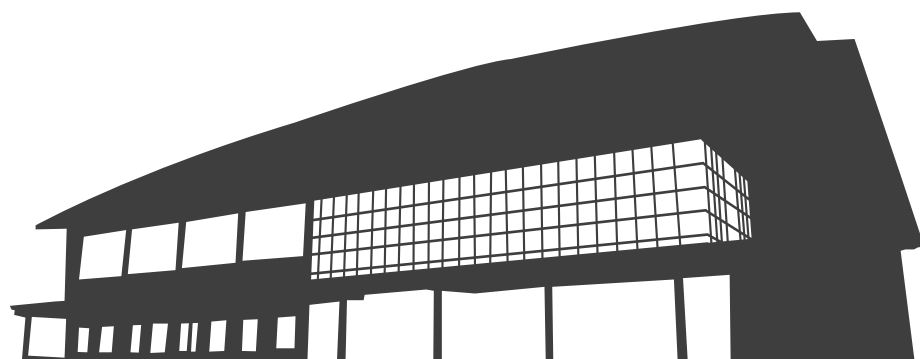


たくさんの感動をありがとう。



キ★ラ★め★き
くだまつの宿

文集編



思い出の5日間

会長 磯村寿夫

9月29日午後5時、新潟県チーム一行15名、センターに到着、直ちに歓迎会。中村ミニバス選手20名による選手団への激励エールが極めて印象的であった。歓迎夕食会を兼ねて、民泊8家庭と選手団の顔合わせ、調理班の初夕食を賞味。

9月30日午前、市民体育館で初練習。180cmの選手のスピード、迫力、そして、フォーメーションプレイに感嘆した。午後は、大城温泉、家族旅行村、栽培漁業センター、ザ・モール周南の店で『下松の味』を満喫した。

10月1日、山口市での総合開会式に出席。調理班の好意により選手たちは昼食弁当を持参。感謝される。

10月2日、開始式に続いて、第一試合、静岡チームと対戦。我が中村民泊協力会は、中村女子ミニバス児童と保護者、そして中村地区住民などスタンドいっぱい陣取り、応援したが、接戦の結果、1回戦で敗退。しかしながら、新潟チームと我が中村地区の《きずな》は、しっかりと残った。夕、送別会。選手団、民泊家庭、調理班、民泊協力会リーダーで投光器をつけて、野外での焼肉パーティー。選手団16名、一人ひとりから心からの感謝のこたばをいただき、大変印象に残った。

10月3日9時、貸し切りバスでの選手団出発の見送り。あっという間の時間の濃縮された5日間であった。会長としては、民泊8家庭のご協力もさることながら、調理班の女性の皆さんの朝4時から夜10時までの献身的ご尽力に心から感謝をささげる。

国体は大変大きな国の行事であるが「民泊」は、中村地区の「まちづくり」の活動に大きな刺激を与え、今後の福祉、地域活動等への拡充、深化に資することができたと確信している。民泊家庭、スポ少、スポーツリーダー、福祉ボランティア等が国体民泊を通じて融合したことは、大変意義深いと思っている。





国体女子バスケット選手団を迎えて

調理班長 浅田信子

平成23年9月29日、本日は晴天なり。

瞳の輝き、はじける若さ、少しのためらいも見せず、新潟県女子選手団、堂々の中村民泊入り。すぐさま、地域の皆さんと談笑する様は、勇壮でもあり、貫禄十分、圧倒された初対面でした。調理班としても責任の重大さを改めて痛感。

平均年齢72歳、口ほどに身体の利かない元気揃いの女性13人。地域の独居のお年寄りのお弁当作りには、一応、年季は入ってはいるものの、大切な選手の食事となると、自信喪失。思い余って、3月の声を聞く頃から、早々に調理班を結成し、悪戦苦闘の半年間ようやくにして、味よし、色よし、形よし、地元特産のれんこん料理は自慢の一品でもありましたが、残念無念、初戦で敗退し、送別会の焼肉パーティーに全て変身してしまいました。

下松市への民泊入り第1号の新潟県選手団、4泊5日の絆でしたが、血縁関係のない親兄妹、孫たちも誕生し、温もりの通い合う送別の夕べは、生涯忘れ得ぬ大きな心の財産となりました。別れの朝、一期一会の手書きの絵、早朝からのつきたての紅白餅、下松銘菓ともども鞆は満杯。

華やかに万歳三唱でのお別れ。

終生忘れじ、新潟県選手団の皆さん、皆さんとの出会いは、私ども地域の絆もより深く強いものとなりました。〔和して敬する〕山口国体に感謝、新潟県選手団に感謝、地域の皆様に感謝、素晴らしい出会いに感謝。

みなさまとの赤い絆は、いつまでも温めておきましょう。ありがとうございました。

貴重な体験

民泊家庭 河村 崇

我が家に4泊したのは、新潟県チームの笑顔が印象的な23歳の2人だった。

夕食を終え、家に帰ると、コートの上での厳しい顔つきは消え、ゆったりとくつろぎ、会話も弾んだ。中でも食事の話になると、「毎回いろいろな蓮料理が出て、とてもおいしくいただいています」と調理班の皆様に感謝していた。

後日、連名の礼状が届いた。民泊で生まれた縁が長く続くことを願っている。



民泊の思い出

歓迎班 小畑 勝敬

選手が来会するまで1ヶ月、歓迎会の準備に追われた。引受けチームである新潟県は、下松市のトップを切って来会することとなり、急ピッチで歓迎会や民泊家庭の装飾を整え、何とか当日に間に合わせることができた。歓迎会には、民泊家庭や中村地区の多くの方々が駆けつけ、中でも中村ミニバスの児童による応援エールは、選手団に勇気と感動を与えとともに歓迎会を大いに盛り上げてくれた。

応援では、ミニバス児童を中心に結成された大応援団が、大声援を送り、チームに活力を与えた。試合は惜しくも敗れたが、民泊協力会が一丸となって応援し、地域の絆が深まったと感じた。



私たち新潟県成年女子バスケットボールチームは下松市の皆様方の心温まる歓迎に包まれながら、大会期間をスタートしました。私たちは特に中村地区の皆様のお世話になったわけですが、調理班の方々には朝晩の食事に加え、開会式や大会当日にはお弁当やおにぎりまで作っていただき、盛大な歓迎会・送別会での料理など私たちの体のことを最大限に考慮し作っていただきました。

また各家庭の方々におきましても、私たちを家族の一員のように温かく接していただき、万全のコンディションで試合を迎えることができました。

そして、皆様のご配慮で、笠戸島や笠戸ひらめなど下松市の文化にも触れる経験をさせていただきました。

静岡に初戦で負けたことはもちろんですが、中村地区の皆様方の心温まる応援に応えることができなかったということが一番の心残りです。

しかし、皆様のおかげで大会を振り返ると心温まる思い出深い大会にすることができました。本当にありがとうございました。

新潟県バスケットボール成年女子

キャプテン 坪谷愛美



すべての人にありがとう

会長 藤井俊則

今回の民泊は「他の地区と競争はしない“ふれあいの里・米川“らしく」をモットーに、全て班長さんにお任せで終始。

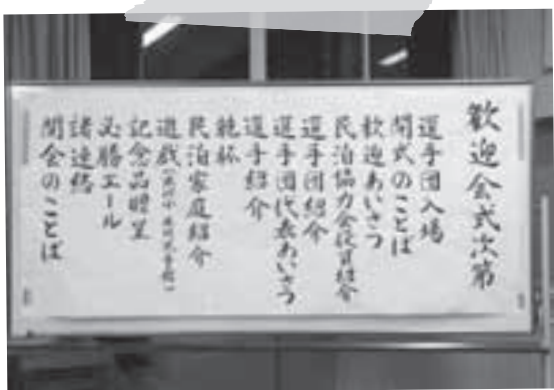
総務班長には全体の目配せを、美化班長にはプランターの管理を、歓送迎班長は動員手配から司会まで、宿泊班長には家庭との連絡調整に手を煩わせました。調理班は、班長のもと、心を込めて、3泊4日の食事をご用意いただきました。

一々のご紹介はかないませんが、あらゆる分野で、米川地域の皆様に知恵と汗でご協力をいただきました。公民館の3人にも本当に良く支えていただきました。「ふれあいの里・米川」の底力を見た思いがいたします。

愛媛県チームにも満足していただけたものと思っております。地元に溶け込もうとされた歓送迎会での姿、バスケ教室での嬉々とした子供たちに民泊の良さを感じました。惜しむらくは、民泊家庭での団欒時間が十分取れなかったことでしょうか。

民泊家庭のご協力には感謝あるのみ。

「全ての人にありがとう」の米川民泊でした。





民泊の思い出 調理班 手嶋康代

「ねえ、75℃で何分じゃったかいねえ?」「みそを入れるのは、まだ早いよね。」

夜も明けやらぬ米川公民館の調理室から聞こえるのは米川民泊協力会調理班の元気なおばちゃんたちの声。

「おはようございま〜す。」と少し眠そうな顔で入ってきて、配膳している私たちを手伝ってくれた選手たち。手作りのマットや箸袋に歓声をあげ、「おいしかったで〜す。」と大盛りのご飯も完食。持参してきているとは知らずに出したポンジュースも喜んでくれ、「愛媛ではポンジュースは水道の蛇口から出るんですよ。」と大まじめに言う選手に大笑い。

そんな元気な選手たちともお別れ。「あっという間じゃったね。」「忙しかったけど充実しちゃったね。」とおばちゃんたちは、寂しさの中に達成感も。

後日見た選手のブログに“ご飯作ってくれてありがとう。メッチャおいしかったです。”とあり、思わずガッツポーズ。

民泊の思い出

宿泊班長 安永槌男

米川民泊は10月1日から3泊の民泊です。愛媛県成年女子バスケットボールの若い美女チームです。体育館で練習後、米川に到着。「のんびり村・米川」の人に児童館も加わり公民館の前庭で出迎え。民泊家庭と初顔合わせでは、双方緊張の一瞬でしたが、自己紹介が済むとすぐに笑顔が出はじめ、一安心。四国から車2台で来松お疲れ様でした。歓迎会は、地区の方、児童館、小学生そして民泊家庭の総勢120もの人が集まった大歓迎会でした。

10月2日、試合当日、愛媛県チームの試合です。相手は優勝した愛知県チーム。米川民泊協力会大応援団の熱い応援でしたが熱戦の末、惜しくも敗れました。その夜の送別会と民泊ご苦労さん会は、監督・コーチも出席され、大盛会。親睦と感動の会でした。

10月3日は、米川小学校の体育館で小学生とバスケ交流会。お姉さん達との交流は、思い出となったものと思います。ありがとうございました。



民泊を引き受けて

民泊家庭 来栖光雄

山口国体の話題が日増しに高くなる中、地元下松市でも俄かに“民泊”が急浮上し、当米川地区も引受けとのこと、しかも、あろうことか静かなること下松一の我がオンボロ家に民泊の打診、妻と久しぶりの真剣会話の末、引受けと決定。以後は、民泊関連の打合せ等、直近まで不安の毎日でした。

9月中旬、引受けは、愛媛県女子チームと知らされ、残り2週間、連日経験したことのない整理・整頓・清掃・花の世話…忘れられないのは風呂場天井の掃除。滴る水が薄くなった頭を直撃し、苦笑しながらの作業。

さて、10月1日、公民館での引受け選手と対面。そして初日の宿泊を無事に終え、安堵しました。翌日は、試合会場へ。残念ながら、1試合で終わってしまいましたが、3泊を通して何気ない会話と仕草から彼女達のスポーツマンとしての厳しさや優しさを感じ取りました。

別れの朝は、お互い胸中穏やかならず。公民館を出発する車から手を振る選手たちの顔が今も脳裏に残っています。



山口国体を終えて、1番に思い出すことは民泊で大変お世話になった米川の皆さんのことです。

私達は民泊させてもらう場所のことを、山でダムとダムに挟まれてるような場所とだけ聞いていました。楽しい気持ちもありましたが、初めて民泊をする選手がほとんどで、米川に行く道中は不安と緊張がチームに浸透していました。米川に着いて、私達は予想をはるかに上回る盛大な歓迎を受けました。本当に感動しました。

試合の組み合わせが決まった時から、初戦から厳しい戦いになると考えていた私達。米川に行くまでは正直、勝つことに執着していませんでした。ですが、米川の皆さんに心こもった歓迎会をしてもらい、食事の事も含め、ものすごく前から準備をしてくださったことを知りました。「負けられない！1試合でも多く、皆さんに私達の試合を観てもらいたい！応援してもらいたい！勝つぞ！！」と、闘争魂に火がつけました。

結果、試合は負けてしまいましたが、米川の皆さんの応援がものすごく力となり励みになりました。

翌日、恩返しという意味でも地元の小学生とバスケットボールをして短い時間ではありましたが交流させていただきました。喜んでもらうはずが私達の方がはしゃいでいたかもしれません。本当に楽しい時間を過ごさせていただきました。

米川の皆さんへ心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。
山口国体は私にとって、とても心あたたま思い出となりました。

愛媛県バスケットボール成年女子

川井 梢



民泊の思い出

会長 清水芳則

末武地区民泊協力会は、地区の自治会連合会、公民館運営委員会、社会福祉協議会、婦人会、老人クラブに所属する各種団体で組織しました。協力会組織は総務・歓迎・調理・美化・民泊の各班に分け、経験豊かな人をお願いし、協調進取、人の和で対応してまいりました。

事故無く民泊を終えることができ、私達が引き受けた愛知県選手団には優勝という置き土産をいただきました。「耐えて咲く人生の花」の教訓と感動をありがとう。

祝勝会は、市長、副市長、市議会議長さんを招き、立食パーティーをしました。大いに盛り上がり、選手は涙を流し、言葉を詰まらせながら、「お世話になった下松の人にまた会いたい。」など感謝とお礼の言葉を述べていました。また、民泊家庭の方々は、娘か孫のような感じで接し、別れを惜しむ場面もありました。

私は、今日の無縁社会の世相の中、「スポーツマンはすばらしい。アア良かった。」の一言に尽きる思いであります。

関係各位の献身的なご協力に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



民泊の思い出

調理班長 野村耕造

末武公民館で引き受けた愛知県チームは見事優勝を果たしました。優勝祝賀会には選手・民泊家庭・役員総勢60名の方々に参加いただき、喜び、笑い、感謝の涙でいっぱい生涯忘れることのできない祝賀会となり、民泊の食事を締めくくることができました。

調理班は、婦人会と給食ボランティアの2つのグループが担当し、4月から調理実習を開始しました。開始当初は日ごろの味がうまく出せず、不安もありましたが、実習の回数を重ねていくうちに普段のおいしい味を出せるようになり、本番は自信を持って望むことができました。

食事は、2つのグループが交代で10回提供しました。調理班の方々は、毎日おいしく安全な食事を提供することに全力を注ぎ、日を追うごとに疲労がたまってきているのが明らかでした。しかし、選手の明るいキャラと祝賀会での「この食事はおいしかったでーす！」という言葉で疲れも吹き飛び、改めて、民泊に協力してよかったと思いました。



民泊の思い出

美化班長 田中正己

昨年、末武地区民泊協力会を立ち上げると同時に、美化班の班長を任せられ、早速50基のプランターでサルビア等を育成した。原因はわからないが、花の成りはあまり良くなかった。

今年は、本番でもあり、昨年より40基多い90基を育成することとなり、選手の皆さんを気持ちよくお迎えする花づくりと思うと少し緊張した。美化班のメンバー15名が日照等を考えて、プランターの設置場所を決め、毎日の水やり当番を決め、7月15日の土作りから本格的にはじめた。

その日の花の状況を次の当番に知らせるため、日誌を作成し、花の状況把握とメンバーの意思確認した。

おかげで、選手の方々をお迎えするときにきれいな花を咲かすことができた。美化班全員が一つの輪になり、とても楽しく有意義だった。

民泊家庭を引き受けて

民泊家庭 宝迫和美

ここ、何十年かは、孫以外我が家に寝泊りした者はいない。そんな我が家に他人であるバスケットボール成年女子の選手が泊まる。不安と戸惑いの始まりだった。

初対面、歓迎会、お互いの自己紹介…。なんと気さくな選手たちだろう、これがスポーツ選手なのかと一気に緊張感がとれた。老夫婦だけではと、息子夫婦に孫2人を呼び寄せて、我が家でも歓迎会…娘2人が増えた新家族。

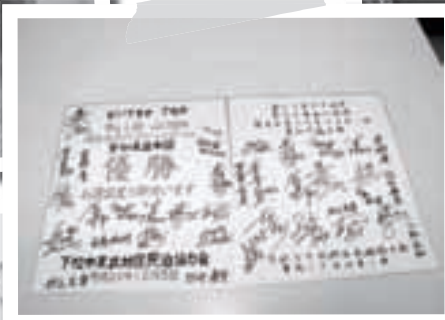
そして、試合ともなると家族総動員。勝ち進む我が愛知県チームに応援も日増しに盛り上がる。小学生の孫も学校観戦での応援席が相手チーム側で戸惑ったようであるが、コートから選手が見つけてくれ合図をくれたと満足顔。

応援の成果があってか、愛知県チームが優勝し、応援席での喜びの声が盛り上がった。

祝賀会では、各選手号泣のあいさつ、我が家の娘2人も同様に声にならない。後に回りフォローするが、年齢のせいか、自分も目頭が熱くなった。そんな雰囲気を入我家に持ち帰っての2次会はチーム仲間も集まって、話がつきることがなく、明け方まで続いた。

お別れの日当日、目があった瞬間に駆け寄ってきて、涙を流した。民泊家庭ならではの感動。民泊家庭の仲間と照れ隠しに口にする…「みんな良い娘でよかったですね。」

「2度と経験できないこの感動をありがとう」と選手に向かって叫びたい。





今年度の国体での民泊は、秋田国体以来4年ぶりということで、選手の中には数人経験者がいますが、初めての選手がほとんどでした。

チームとして初めての民泊ということで 多少なりとも不安がありました。

愛知県としては、今回「優勝」という目標があり、県の代表として出場していることも含め、体調管理や、食事等心配なことは色々ありました。

しかし、地元の方の温かい心のこもった歓迎や食事、応援等すべてにおいて何から何まで選手のことを考えてくださったことが、十二分に伝わりました。

特に、食事は大変美味しく、栄養面からもサポートしていただき、選手も大変満足していました。食事班の方々の気持ちのこもった食事には、愛情が感じられる反面大変さが伝わり、力をいただきました。

それぞれの民泊家庭の方々には長期間にも関わらず、温かく迎え入れ、自分の子どものように接していただき 本当にありがとうございました。

体調を崩す選手もおらず、何一つ不自由することはありませんでした。優勝することができたのも、末武地区の方々のおかげだと思っています。

チーム担当の方、今回お世話になったすべてに方々に感謝するとともに心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

愛知県バスケットボール成年女子

監督 井上友幸



我が民泊協力会を振り返って

会長 辻 國政

一生の思い出にすることで、民泊協力会設立を決定した笠戸島連合自治会。各地区の皆さんに協力をお願いし、国体に対する機運を盛り上げつつ、9月11日の受入チーム抽選会で「笠戸島に行ってみよう。」と聞いていた地元山口県を見事引き当てた。

協力会一同大いに盛り上がっている中、9月30日、選手団が拠点施設である笠戸島公民館に到着。夕方、笠戸小学校・江の浦小学校児童による和太鼓、沖縄の踊り等で選手団をおもてなし。歓迎会も大いに盛り上がった。

10月2日、決戦の日。大きな声で応援したが、惜敗した。真剣勝負を観て本当に感動した。夜、激励送別会では、民泊協力会と選手が一つとなり和気あいあいと接することができた。本当にありがとう。

10月3日の朝、お別れの日。選手の皆さんと別れの言葉を交わし、手を振って見送るときには、胸にジーンと来るものがあった。

1年3ヶ月前に設立した民泊協力会。いろいろな苦勞を乗り越え、無事本番を終了。ひとえに役員の皆様、民泊協力会にご協力いただいた全ての皆様のおかげです。厚く御礼を申し上げます。

笠戸島7地区全体での協力体制で成功した笠戸島連合自治会民泊協力会。これからも頑張ろう。





私の国体

民泊家庭 森野多津子

2年前に軽い気持ちで引き受けた民泊の話。大会が近づくにつれ何をどんな風に準備すればいいのかと不安が頭をよぎっていたが、歓迎会で選手達と自己紹介を交わしたときに彼女達の明るさと人懐っこさで今まで不安に思っていたことが一気に吹き飛んだ。

試合当日は民泊を担当している人たちが同じジャンパーを着て応援に出かけた。1回戦で負けてしまったけれど迫力のある戦いに久しぶりに大興奮し、楽しい時間を持たせてもらった。

国体も終わり、秋が少しずつ深まっている10月の末に我が家に泊まった選手の1人が遊びに来てくれた。久しぶりの再会にお茶をしながらお互いの近況を話した。

3日ほど宿を提供しただけ。けれど新しい出会いができ「民泊を引き受けてよかったな」と思っている。

がんばった太こえんそう

笠戸小5年 笠本広海

9月30日、バスケットボールの選手に太このえんそうをひろうしました。

江のうらの笠戸島公民館で、「風」、「空」、「源」の3曲をえんそうしました。

3曲とも、リズムが速かったです。それに、私はしめ太こで、細かいリズムが多いパートです。「源」では、しめ太こがずっと細かいリズムをたたくので、手元がごちゃごちゃになってしまいました。まちがえることはなかったけど、どんな曲か分かりにくくなってしまったので、残念でした。

でも選手のみなさんがはく手をしてくれてホッとしました。選手のみなさんに元気をあげられたと思うので良かったです。



民泊国体の思い出

江の浦小6年 メリットひなの

「こののぼり旗はどこに立つのかな。」

わたしは、そう思いながら一生けんめいのぼり旗に絵を描きました。笠戸島にバスケットボール山口成年女子チームのみなさんが民泊されることになって、江の浦小の全校児童で歓迎のぼり旗を描きました。笠戸ヒラメ、笠戸大橋、瀬ダコにアサリ。完成したのぼり旗を並べると、ふるさと笠戸島の自まんのものがせいぞろいしました。

いよいよ女子チームのみなさんの歓迎会の日。わたしが描いたのぼり旗は、大漁旗といっしょに公民館に飾られていました。大漁旗の中には、わたしの知っているおじさんの船の旗もありました。大漁旗と手作りののぼり旗。選手の皆さんを心からおもてなしたいという心意気が風におどっていました。

歓迎会では私たちは、選手のみなさんが幸運に恵まれるように、力いっぱい江の浦エイサーをおどりました。すると選手のみなさんが自然に手拍子を打ってくださったのです。「私たちの気持ちが選手のみなさんに通じたんだ。」私は、そう思いました。うれしくて、うれしくて、たまりませんでした。

私は、陸上をしています。いずれ国体選手としてプレーしてみたいという願いを持っています。その時、フィールドに立つ私をささえてくれているたくさんのみなさんの気持ちに全力でこたえる選手になろうと思います。



笠戸島民泊協力会の皆様、国体期間中は大変お世話になりました。民泊は4年ぶりでしたので多少緊張しましたが、到着後のあたたかい歓迎会で選手・スタッフ一同の緊張がほぐれ、楽しむことができました。またスタッフの希望として民泊先は笠戸島が良いと考えていたところ、本当に笠戸島へ行くことができ、誠にありがとうございました（ここで運を使い切ったのかもしれませんが）。

1回戦、山形県と対戦し、前半リードで折り返しましたが、試合残り1分、勝利の女神は山形県に行ってしまいました。決勝戦まで勝ち進み、優勝することが山口国体での目標でしたので、笠戸島に長く滞在する予定でいましたが、結果、滞在期間が短くなってしまい申し訳なく思っております。しかし、笠戸島民泊協力会の皆様の大声援、また山口県民の皆様の大声援を受けて試合ができたことは一生の宝物となりました。

最後に笠戸島民泊協力会会長をはじめ、役員の皆様、山口県担当の小林さん、色々我がまま言いましたが、どんなことも快く引き受けてくださり、朝早くから夜遅くまでお世話いただき、誠にありがとうございました。これからも山口県はチーム一丸となって精進していきたいと思っておりますので、引き続き応援をお願いいたします。また選手・スタッフの半数は下松市民ですので、また下松市内で会った時には声を掛けていただければと思いますし、笠戸島入口横の体育館にも気軽に寄っていただければと思います。

山口県バスケットボール成年女子

監督 梅田貴之



48年ぶりの山口国体を迎えて

会長 清木健一

とよい民泊協力会には、兵庫県成年女子バスケットチーム16名がこられました。2人1組で8家庭に民泊をお願いしました。27人の調理班、60人のボランティアスタッフにも参加をいただき、スムーズに運営ができたと思います。公民館での歓迎会・送別会も皆様方のご協力により、盛大に執り行うことができました。また、花いっぱい運動も行い、サルビアなどを民泊家庭や拠点施設、道路に飾りました。

選手には、下松市の代表的な企業でもあります日立製作所にて新幹線が出来上がる課程を見学していただきました。

民泊の長きに渡る準備など大変でしたが、多数の皆様方の参加をいただき、楽しい思い出になったのではないかと思います。



国体の思い出

美化班長 有馬甚二郎

育成場所は、昨年の経験をもとに、公民館横の公園とし、散水は、美化班を中心に会長と各班とボランティアの42名を21班に分け、57日間の花管理を計画した。

7月26日、苗が市の実行委員会から届き、プランターへ移植し、遮光ネットを取付け。8月5日から朝夕2回の散水を開始するが、昼間の照射時間が少ないことが分かり、20日から朝1回に変更、置き場所も9月から変更した。開花までの肥料、薬剤散布、枯れた苗の植替えは、公民館職員をお願いをした。散水時間は、蚊が出没し、当番の方には苦勞をかけました。

22日は公民館周りの植木の剪定の手伝い。9月27日には、プランターを民泊家庭へ4基ずつ配布し、公民館玄関に設置した。

会長をはじめ、たくさんの方の御協力を得て、美化班の仕事を終えることができました。感謝いたします。

おいでませ！山口国体

歓迎班長 藤田幹雄

山口国体において、下松市のどこの民泊協力会の皆様も迎え入れる他県からの選手団を心から歓迎し、応援し、送り出されたことと思います。私も歓迎班長に任命され、歓送迎会の司会等にこの町・この地域の方言丸出しで務めさせていただきました。選手団の皆さんも気を使わず、楽しんでくれたことと思います。

試合では、勝てると思っておりましたが惜しくも敗れ、われわれの当初の計画より早くお別れすることとなりました。来年のぎふ国体では、兵庫選手団の更なるご活躍を願います。

別れの朝、見送り会で監督から「来年の国体にこられますか？」と聞かれたとき「わからんねえ！」と返答したことが後から考えたとき、心残りに思えました。「はい！応援にいつちやげますよ！」と次回国体ではそう答えます。自分の寿命の都合がありますけど、、、。

山口国体民泊はいろいろ勉強になりました。ありがとう。



山口国体を終えて

調理班長 清木貴美子

「たちあがれ！東北 がんばろう！日本」を合言葉とした48年ぶりの山口国体。とよい民泊協力会も各班において、準備が進められました。私たち、調理班27名。衛生研修会、調理班指導者研修、班長会議と研修を重ね、調理実習も全員と各班に分かれ、何度も行いました。総務班や民泊家庭の方たちにも試食していただいて、味の確認をし、本番に備えました。調理班は特に衛生を第一に「食中毒を出してはいけない。」「大変だ。」「面倒だ。」といいながらもその都度話し合いました。調理班は朝早くから夜遅くまで、本当に大変だったと思いますが、選手の顔を見たら、大変さも楽しみながら、食事を作ることができました。

選手から「毎日おいしい食事をありがとうございました。」と言っていたいたときは、大変だったけど何事も無く終わらせることができた、ホッとしました。

調理班の皆様ありがとうございました。

民泊を受けて

民泊家庭 近藤 薫

東京オリンピックの前年、昭和38年、第18回国民体育大会が開催された。15歳のときである。今でもそのときは覚えている。このたびは何らかの形で国体に協力・参加できないかと思っていた矢先に民泊家庭の話があった。

どのチームがくるのか、どんな選手が来るのか、直前までいろいろな思いを馳せながら、ついにその日は来た。

10月1日に兵庫県チーム女性2名を息子夫婦といっしょに歓迎し、試合に応援に楽しい3日間だった。

10月4日の朝の別れは、感傷的になり思わず、、、。今回、民泊家庭を引き受けて本当に良かったと思う。これこそが本当の国体ではなからうか。おいでませ山口！！



民泊を受けて

民泊家庭 武居 悟・しのぶ

民泊家庭研修会を受講したり、民泊協力会と打合せをするたびにムードがだんだん盛り上がってきました。

我が家には大学生の2人の娘さんが来ました。2日目には、娘夫婦、嫁、孫達が来ました。孫達は、色紙にサインを書いてもらったり、「試合頑張ってね」と小さい手で、握手したりと、選手に甘えていました。

試合は、我が娘達の大活躍でしたが、惜しくも敗退しました。その日の夜の送別会では、それぞれの民泊家庭と選手が壇上でエピソードを発表するなど、楽しいひと時を過ごしました。

お別れの朝、自家製のさつま芋、春菊、ワケギ入りの味噌汁で我が家を後にしました。忘れ物がないかと部屋をのぞいてみると、後片付けがきちんとされていました。礼儀正しい娘さんたちでした。

バスに乗る彼女達を見送り、一生懸命手を振ってくれる姿を見て、民泊を引き受けてよかったと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

本当にありがとうございました。



下松市に着き改札を抜けると目の前には、下松市の民泊協力会の方々が大きな横断幕とともに私たち兵庫県成年女子チームを出迎えてくださいました。盛大な歓迎に最初は驚いてしまいましたが、とても嬉しかったです。

駅から移動して公民館に着くと、こちらでも横断幕とともに多くの人たちが私たちを出迎えてくださいました。兵庫県成年女子のほとんどの人にとって民泊は初体験で不安がありましたが、これだけ温かく迎えてくださったので、不安はすぐにはなくなりました。

試合が残念な結果に終わり、2泊3日の短い期間でしたが、どの家庭も私たちが訪れるずっと前から細かい準備をくまなくしていただいて、何よりも選手が訪れるのを楽しみにしていてくださって、とても過ごしやすく安らぐことができました。自分の家ではないのですが、「私の家はこんなに広い」「私の家はこんなに良くてくださる」なんていう、『自分の家自慢』が選手の中で繰り広げられる程でした。民泊協力会の皆さんが朝早くから作ってくださった朝食や夕食は、美味しいのはもちろんのこと種類も豊富で色鮮やかで楽しみながら食事ができました。遠征の試合の時などにはなかなか味わえない温かい味を食べることができ、試合前の選手の大きな活力になりました。どこで過ごしてもホテルなどに泊まるより、直接身近に人の温かさを感じることができて、本当にいい思い出になりました。

試合の時には皆さんが応援に駆け付けてくださり温かい声援をいただき、大きな力となりました。お世話になった方々にバスケットボールを通して恩返しをしたかったのですが、結果は力及ばず残念ながら負けてしまいました。でも、人生で初めてバスケットボールを見たという方々が「凄かったよ」「バスケットボールって面白いね」「また見たい」と声をかけてくださったので、精一杯戦って良かったと思うことができました。山口国体で下松市に来て、皆さんに出会えて、試合をすることができて本当に良かったです。

最後の夜には盛大な送別会をしてくださり、美味しいお料理と共に笑いあり踊りあり感動ありと、とても色濃い時間を過ごさせていただきました。

一生の思い出になる2泊3日を本当にありがとうございました。

兵庫県バスケットボール成年女子

木下歩紀 村田稚佳



国体の思い出

会長 木本芳樹

北海道チームの民泊が決まり、久保地区では、「心のこもったおもてなし」を合言葉にそれぞれの準備はしていたものの、不安は否めませんでした。最後の二週間は大変で、実行委員会とチーム担当から情報を得ながら、毎日、看板、横断幕、食事の献立、受け入れ家庭との調整、内外の飾り付け、歓送迎行事等々、どうにか選手の受け入れ体制が整いました。

いよいよ選手の到着です。バスから降りた選手の明るさで、今までの苦労は吹っ飛びました。まるで旧知のごとくの振る舞い、これぞ民泊の所以と感じたものです。

試合のほうは残念ながら、優勝チームとの対戦で負けましたが、雰囲気と若い活気と感動で、胸がいっぱいになりました。

お別れの時には、なかなかバスに乗らず、民泊の皆さんとの別れが辛い様子でした。

「やって良かった民泊」。北海道選手団、感激を有難う。今後の活躍を祈念します。
「またおいでませ！伝統の地、久保へ」



国体の思い出

調理班長 中村征子

平成23年は、調理班の班長の大役を担って、ことのほか長かったり短かったり、また、うきうきしたり動揺したりと、さまざまな体験をした年でした。

まず、食べることは健康の第一歩であり、それゆえに安心して食べるということが何より大切です。その為には、清潔を保ち栄養バランスの取れた食事を、選手の皆さんに美味しく食べていただきたいものです。

4月中旬、保健所の衛生講習を皮切りに、6班の班割り、工程表の作成等を念入りに吟味し、水無月の雨をたっぷり吸ったアジサイの咲くころ始めた第1回目の調理実習から、何度も回を重ね、その間に保健所からお墨付きもいただきました。

ささやかな食事ですが『おもてなしの心』で愛情込めて手作りさせていただこうと誓ったお陰で、4日間大過なく、無事に終わることができました。選手の皆さんから、喜んでいただいた時、肩の荷が『ドッ』と降りたのを覚えています。これも公民館の全面的な協力と、調理班の努力が成功に繋がったことはいまでもありません。ご協力有難うございました。

国体の思い出

歓迎班長 猪本英雄

久保民泊協力会の設立会議だ。いよいよ、山口国体開催が現実的なものとなってきた。私は、歓迎班に推薦された。メンバーも良い。

さて何をすればいいのか。前の開催県の資料を参考にしつつ、事務局の助成を得ながらの取り組みとなった。

「子ども国体県民運動」に応募し、小・中学生による応援看板、横断幕、のぼり旗を作成。素晴らしいものができた。特に、伝承芸能を模した看板はこれからの久保地区の発展に役立つであろう。「ヒノキのメダル」「生花」でのおもてなし、子どもたちの心がこもっている。

待ちに待った「北海道チーム」の来館。関係者、多くの地域の人達が待つ中、「松風太鼓」での歓迎。選手は明るく、乗りが良かった。ひと安心！さあ応援だ。久しぶりに燃えた。長岡外史も良く頑張った。そして祝勝会を兼ねた送別会。切山歌舞伎の衣装で記念写真。選手、民泊家庭、役員全員が大いに盛り上がった。我々は、ただ選手が喜んでくれることのみを考えてきた。そして最後の涙の別れ。短い期間ではあったが、心の通い合った思い出としていつまでも心に残るであろう。それにしても、子どもたちを含め、地域の人々のパワーってすばらしいと感じさせられた国体であった。



民泊の思い出

民泊家庭 石田壽照

試合は熱戦であり、選手の皆さんたちが日ごろの練習の成果を発揮されて、コートを所狭しと走り回り、飛び散る汗とキュッ、キュッというシューズの擦過音と歓声と時にため息がします。応援席では、長岡外史リーダーのもと大声援を送り、応援席も一体となつての試合の展開でした。選手の方の中には時に鬼の形相があります。仏教では、阿修羅というのは戦いの神であり、仏法の護り神のことですが、私どもも人生の大切な場面においては、歯を食いしばって戦い抜くことが必要なときがあります。試合において、そうした真剣な表情を見られたことは感動の一場面でした。

北海道選手団の皆さん、今日は山口国体5位、日本で第5位ご入賞まことにおめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

皆様の今後の益々のご活躍を念じ上げます。

民泊の思い出

民泊家庭 数井忠義

昨年の秋、いよいよ民泊家庭の募集が始まりました。我が家は、民泊拠点施設の久保公民館にも近く、断る理由もありませんでしたので引き受けることにしました。何度かの研修、会議があり、来松の日が決まりました。それからは、家の掃除や、買出し等で忙しい日々が続きました。私は、お出迎えの太鼓の指導もしていましたので、早めに公民館で待ちました。民泊する子どもたちはどんな子ども達だろうと考えていると、すぐに到着です。無事に歓迎の太鼓、対面式を終え、民泊選手2人と一緒に公民館を後にしました。最初はお互いに緊張し合っていましたが、日に日に緊張もなくなり、娘たちとも意気投合していました。私を含め、他の民泊家庭の人達とで仮装応援をし、それに答えるように彼女たちも一生懸命プレーし、その迫力に圧倒されました。試合は残念ながら負けてしまいましたが、夜遅くまで2人の健闘を讃えました。楽しかった3泊4日、今度の山口国体がある時、私はこの世にいません。よい経験ができました。

ありがとう山口国体、ありがとう北海道！



民泊を引き受けて

民泊家庭 近藤哲也

民泊家庭として、我が家は監督を引き受けることになった。監督と私たちは同年配で、色々話弾み、山口県は竹が多いが、北海道には大きな竹がなく、細い竹や、熊笹ぐらいで、筍は採れないとか、我が家の近辺に柿が沢山なっているのを見て、柿木やみかんの木も育たないようだなど、同じ日本でも随分違いがあると思った。また、監督は学校の先生をしておられたとのことで、話の中で、我が家の前の道が旧山陽道で、下松市史によると1200年前、馬屋を置いたのが往還道の始まりと言われ、豊臣秀吉が朝鮮出兵の時、兵が通ったとか、江戸時代には、大名の参勤交代の行列が往来した重要な道路となったとの話になった時、北海道は函館など一部の所を除いて、ほとんど明治時代から開拓されたので、古い時代の遺跡はないと、非常に興味を持たれ、朝早く起きて、近辺の写真を写すと出かけておられました。私達も監督から、北海道の良い所や、広いので上手な旅行の仕方など教えてもらったので、是非とも、元気なうちに北海道各地を巡ってみたいと思っています。

今思い返してみると、最初の心配はどこへやら。3泊4日はアツと言う間に過ぎ、民泊を引き受けて本当に良かったとしみじみ思っています。



民泊を引き受けて

民泊家庭 貞木雅之

春先から体調を崩していた私は、民泊をお引き受けできるか不安でした。9月までには元気に、との思いが源となったのでしょうか、無事国体の日を迎えることができました。北海道チームをお迎えすることになり、心躍らせて待ちました。

選手団の方々は、おおらかで、明るく楽しい人達でした。我が家には、札幌大学の高橋さん、脇坂さんの二人が泊まってくれることになり、私たちにもすぐなじんで、本当の家族のように楽しい4日間でした。早朝、コスモスを見に散歩したことなど思い出されます。

会場で偶然、脇坂さんのお母さんとお会いし、一緒に応援したことなど忘れることのできない思い出です。帰北の日、見送るときのこと、今思い出しても切なく、胸が熱くなります。もう一度会うことができたならと・・・・・・・・

国体を肌で感じる事ができ、皆さんとの出会いに感謝です。

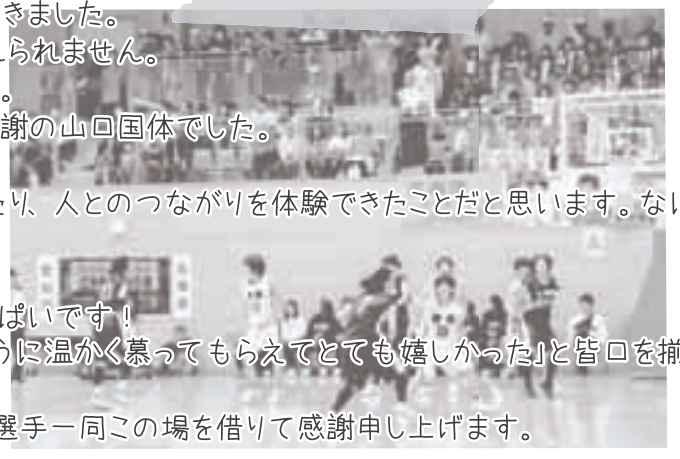
私たち北海道チームは、山口国体において山口県下松市久保地区の皆さんのご家庭に4日間民泊させていただきました。私たちは普段大会や遠征などではホテルや旅館などに泊まることが多く、選手・スタッフともに初めて民泊をする人がほとんどでした。

正直、初めての民泊に緊張と不安な気持ちでいっぱいでしたが、そんな気持ちも公民館に到着してからすぐに大きな期待へと変わっていきました。子ども達の元気な掛け声と太鼓から始まり、私たちの予想を遥かに上回るほどの温かな、そして盛大で素晴らしい歓迎に驚きと喜びの気持ちでいっぱいになりました。各々の民泊先でも事前から私たちのために様々なことが準備されており、何一つ不自由のない生活をさせていただきました。また、食事面でも毎朝・毎晩、衛生面や栄養面、カロリーバランスなどに配慮した久保地区のお母さん方が手作りで用意してくださった美味しいご飯をいただき、私たちは心身ともに万全の状態で試合に臨むことができました。試合当日は、さすがに明るい久保地区の皆さん！と思わせるようなド派手な衣装と応援で、この地区にも負けない大きな声援を送っていただきました。試合中も常に大きな応援が聞こえ「久保地区の皆さんのためにも勝って恩返しをしたい！」そんな気持ちで試合に挑みました。試合中、相手にどんなに点数を離されてしまっても「諦めるな！」「頑張れ！」とエールを送ってくださり、最後の最後まで「北海道～！北海道～！」という応援で私たちに元気とパワーを与えてくれました。結果は負けてしまい、試合に勝って久保の皆さんに恩返しをするができず悔しさと申し訳ない気持ちでいっぱいでした。しかし、そんな私たちの敗戦を誰一人責めることなく、逆に「よくやった。頑張った。」「お疲れ様」などと明るい笑顔で声を掛けてくれました。夜には歓送会を開いてくださり、私のためにこんなことまでやってくれるのかと思うと思わず涙が溢れてきました。歓送会では山口、下松の歴史や魅力をたくさん披露していただきとても楽しい時間を過ごすことができました。4日間を通して歓迎会や歓送会、練習会場の手配や送迎、試合の応援、食事や身の回りのことなどあらゆることまで全てお世話をしていただき本当に感謝の気持ちでいっぱいです。最初は不安な気持ちでいっぱいだった民泊。しかし、4日間久保地区の皆さんの優しさと温かさに触れ最終日には別れが惜しくてたまりませんでした。初めて出会った私たちに、まるで本当の家族のように温かく接していただいたことはずっとずっと忘れません。久保地区の皆さんと出会えたことで人のありがたみや温かさ、人との繋がりの大切さを実感することができ、貴重な一生の思い出となる経験をさせていただきました。

～選手からの感想～

- ・下松市の皆さんがとても温かい人たちばかりで家族のように思いました。
- ・本当の家のように感じるほど、毎日が会話の弾む楽しい日々を送ることができました。
- ・民泊で人の大切さと温かさを学ぶことができました。たぶん最初で最後の民泊であると思うが一度でも経験できて本当によかったです。
- ・朝「おはよう！」と久保地区の皆さんが元気よく挨拶をしてくれて朝から「頑張ろう！」という気持ちになりました。
- ・私は独り暮らしをしているので普段、なかなかバランスの良い食事を摂ることができていませんでした。しかし、今回バランスの良い食事を摂ることができて嬉しかったし美味しかったです。
- ・試合中も旗を振ってくれたり、たくさんの声援をいただいて、応援してくれている皆さんのためにも絶対に負けられないという気持ちになりました。
- ・必死に声を出してくれている皆さんの姿を見て、いつも以上にがむしゃらにプレーしようという気持ちになりました。
- ・今回民泊の方々からの応援をうけて応援してくれている人のためにも自分は頑張らなくてはいけないという気持ちを改めて持つことができ、初心に還ることができました。
- ・公民館に着いた途端からの盛大な歓迎は今でも忘れられません。
- ・本当の孫、子どものように可愛がっていただきました。
- ・たった4日間でも本当に一生の思い出です。感謝、感謝の山口国体でした。
- ・地域や家庭の温かさを肌で感じることができました。
- ・ホテルと民泊の違いは、その地域のことを直接聞けたり、人とのつながりを体験できたことだと思います。なにより、あたたかさに感激しました。
- ・また民泊したいなあと思いました。
- ・地域の人たちや民泊の方々には感謝の気持ちでいっぱいです！
- *選手の感想は数多くありましたが「本当の家族のように温かく慕ってもらえてとても嬉しかった」と皆口を揃えて言っていました。

山口県、下松市、久保地区の皆さんに北海道チーム選手一同この場を借りて感謝申し上げます。
ありがとうございました。



北海道バスケットボール成年女子選手一同

おいでませ山口国体を終えて

会長 守政 男

山口国体が10月に開催され、下松市においても成年男子、女子のバスケットの試合が行われました。大会に向けて、女子の選手は全員下松市内の各家庭に分散しての民泊となりました。花岡地区におきましても、2チームの選手を民泊させて欲しいという依頼がありましたので、生野屋及び花岡両地区にそれぞれ両県の選手の宿泊をお願いしましたところ、各家庭でお引き受けをいただきました。大変有難く頭の下がる思いでした。本当に有難うございました。

さて、9月30日の午後には、静岡・山形両県の選手の皆さん方が到着されました。その夜は役員関係者をはじめ、民泊家庭の皆さんも共に両県の選手や監督さんをお迎えして、歓迎会を開催しました。選手のみなさん方は大変な長旅にもかかわらず、疲れた様子もなく、参加した者全員で楽しく会も大変盛り上がりました。両県の選手の皆さん方は共に若さにあふれ、その上非常に明るく穏やかな選手ばかりでした。この選手達ならそれぞれの試合もきっと頑張ってくれるものと思い、なにかうれしくなり是非とも明後日からの試合にはたくさんの者が応援に行かなくてはならないという気持ちになりました。

10月2日より両県とも試合に臨み、各選手達も精一杯戦っておりました。花岡地区からもたくさんの皆様が応援に駆けつけて声を限りに声援を送りましたが、残念なことに山形県のチームは準々決勝で惜敗しました。しかし、大変うれしかったことは、静岡県のチームが見事に準優勝という立派な成績を収めてくれたことです。

10月5日の夜には、井川下松市長にもおいでいただき、静岡県チームの祝勝会と送別会とを兼ねて盛大な会を催しました。喜びの気持ちとお別れすることへの寂しい気持ちとが共に交錯して、何とも言えない複雑な気持ちになりました。

10月6日の朝には、静岡県チームの皆さんが帰られるということで、公民館において多くの者がお見送りをしました。別れの寂しさがぐっとこみ上げてくるのを強く感じました。数名の者は下松駅までお見送りに行き、列車に手を振ってお別れをしました。

今回の民泊の受け入れを終えて、強く心に感じたことは、役員関係者はもちろんのこと、特に調理班をはじめ、各班の皆様方に大変ご苦勞をおかけしました。なかでも民泊をお引き受けいただきました各家庭の皆様方には、一方ならないご苦勞とご心勞をお掛けし、大変お疲れ様であったことと思います。深く感謝申し上げます。

いずれにしましても、このたびの民泊に対しまして、花岡地区の多くの方々の力が一つになり、このような素晴らしい成果を上げることができたものと、大変有難く思います。

改めてここに皆様方の力の素晴らしさに驚きを感じますとともに、本当に頭の下がる思いでいっぱいです。この素晴らしい力をこれからの花岡地区の街づくり等にもしっかりと生かしていきたいものだと思います。

最後になりましたが、関係者の皆様方に深く感謝申し上げると共に、多くの方々のご苦勞に対しまして心よりお礼を申し上げます。

本当に有難うございました。





民泊の思い出

総務班長 中村隆征

総務班は、協力会の総務としてのお役目はもちろん、民泊活動のすべての業務の総括的な仕事で、我々に与えられた任務であると認識し、準備の段階から力が入りました。

選手が花岡に入ってから、緊張の毎日でした。毎朝、6時から公民館に詰めて、選手の体調はどうか、トラブルはないか、などあらゆる方向に目をむけながらの毎日でした。夜は8時過ぎまではあらゆる突発的なことにも対応できるよう、待機していました。これが7日間続き、我々自身の体調にも気を付けながら、任務を全うしました。「おもてなしの心」をモットーに選手、監督さんからの要望にはすべて耳を傾けしっかりと対応したつもりです。選手がシャワーを浴びたいと言えば、総務班のメンバーのマイカーで風呂屋に案内したり、買い物をしたいと申し出があれば、西友のショッピングに案内したり、リラックスしたい時は、神社に案内して必勝祈願もしてもらいました。

花岡には、お稲荷様、花岡八幡宮、関伽井坊、と祈願する神社仏閣に不足はありません。監督さんは八幡様に、そして選手たちはお稲荷へ必勝祈願に、毎朝、密かに？お参りしていたそうです。ご利益があったか、静岡チームは優勝戦まで勝ち進みました。残念ながら準優勝になってしまいましたが、われわれ花岡民泊協力会にとっては最高のうれしい思い出を作ってくれました。

決勝戦の入場の時は、選手、監督までお稲荷さまのキツネのお面をかぶってパフォーマンスをしてくれたり、それぞれの民泊家庭で楽しい家族の一員になってくれたり、協力会のボランティアの多くの地域の人たちに、元気と、感動と、そして「やればできる」という勇気と自信を与えてくれた選手たちに、改めて感謝します。

ありがとう！ ありがとう！

民泊の思い出

美化班長 松本 治

我々の班は、環境協議会員6名、友愛クラブ6名の計12名での活動でした。

5月に生育土地を借り受け、7月1日に第一回の会議を行い、班員の顔見世をしました。7月下旬より9月下旬まで、約2か月間、6班に分けて人里離れた？場所でもあり、事故などを考慮して2人1組でローテーションを組んで生育管理作業を行ってきました。

朝夕、毎日の水やり、肥料、消毒などを実施し、酷暑の中全員の協力で立派な花を育てることができました。

夏の花を秋口に満開に咲かせることに気を遣い、雨などの影響もあり途中根腐れを起こしかけたこともありましたが、皆と連絡を取り合い、何とか乗り切ることができました。

9月20日頃に配合肥料を施したのが良かったと思っています。

この度の活動で、他の団体（友愛クラブ）の皆様と一緒に活動できたことは、今後の公民館行事においても意義あることになると思います。

友愛クラブの皆様、そして環境協議会員の皆様、大変ご苦勞をおかけしました。本当に有難うございました。



民泊の思い出

調理班長 田村恵代

静岡県チーム担当として、調理班12名でお引き受けしました。7日間の調理を担当しました。この間に事故などは全くなく無事終了したことは本当にうれしく思います。

開催前には3回の調理実習をし、特に衛生面には細心の注意を払って実施しました。少し調理の所要時間などに不安がありましたが、選手をお迎えし、いざ開始するとそんなことを考える余裕もなく、あっという間の7日間でした。選手の皆さんの体調を崩さないように、バランスのとれたメニューを考えてみましたが食べる量は人それぞれに違うので、少々食べ残しは仕方ないことかも知れません。

送別会の際には選手の皆さんが、「食事おいしかったです。ありがとうございました」と言われ、調理班として一生懸命頑張った甲斐があり、とてもうれしい気持ちでいっぱいになりました。

民泊の思い出

歓迎班長 角井武彦

歓迎班の活動では、それぞれの特技やアイデアを出し合って活動し、困ったことはありませんでした。

祝勝会では、井川市長にも出席いただき、また、花岡小の児童3人の飛び入りや全ての選手が「この花岡地区の皆さんの親切は絶対に忘れません。」との感動の涙をながしたりと、歓迎班皆さんの一生の思い出となりました。



花岡公民館、民泊協力会の皆さんお元気ですか？

大会期間中の約1週間、私たち静岡県バスケットボール成年女子チームを受け入れてくださり、大変お世話になりました。

私自身、民泊が初めての体験でしたので、当日まで緊張していました。しかし、花岡の皆さんが笑顔と拍手で迎えてくださって、緊張が喜びへと変わっていきました。期間中も毎日会場へ足を運んでくださり、地域一体となって応援していただいたり、家へ帰れば民泊先の方々がまるで家族のように接してくれ、私達は大変過ごしやすい環境で生活することができました。

「少しでも長く、花岡にいたい」と思う気持ちが生まれ、チームの活力となって、最終日の決勝戦へコマを進められたのではないかと感じます。

結果は、準優勝となってしまいましたが、決勝戦前のセレモニーで、きつねのお面をつけて入場したことは、一生の思い出です。

高校時代、三度国体に出場いたしましたが、大人になった今、こうしてまた全国大会にかつての友人と仲間となって出場できたこと、そして選抜メンバーながら練習や試合を重ねてチーム一つとなって戦い抜いたことは大変貴重な経験です。

このような素敵な思い出となったのも、花岡民泊協力会の皆さんのおかげです。チームを代表して心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

静岡県バスケットボール成年女子

主将 森本由樹



民泊の思い出

総務班長 金藤哲夫

48年ぶりの山口国体！！当時、私は高校生で国体を遠巻きに見ていました。この度は『民泊』ということで直接的に選手を受け入れる立場です。

山形県チームを担当することになり、何せ、はじめてのことで大忙し『なんでも強いらしい』『地元、山口と一回戦でやるんじゃ』『どねえするかいのお』『そりゃ何が何でも山形県でいかにゃ』。やっと一つの声になりホッとしました。

毎日を朝と夜の2班にわけて二人ずつ、当番制にして何があっても対応できるようにしました。幸い、メンバーの積極的な協力によって選手の朝食前から待機、夜も選手が民泊家庭に帰って行くまで付き合いました。A班受け持ちの静岡県チームと優勝戦で合う約束でしたが、我が山形県チームは2回戦で惜しくも東京のチームに敗れてしまいました。

A班、B班問わず歓迎班の全面的なバックアップのもとで盛大な送別会が催され悔しい思いとは裏腹に楽しい時間を共に過ごすことができました。

たった4日間、という僅かな時でしたが、それぞれ民泊家庭のあたたかい『心からのおもてなし』のお蔭で、お互いの絆を強く結ぶ出会いができたこと強く確信しています。

来年2月に四国で予定されている実業団のバスケットボールの試合に是非、ツアーを組んで応援に行こう！！と声が上がっているほどの熱いご縁ができたことを心からとても喜んでいます。

感謝！ 感謝！です。



民泊の思い出

美化班長 濱野秀明

300以上のプランターに花を育てることは初めての経験であり、大会当日までにうまく咲いてくれるのか大変不安でした。今年は酷暑の日が続き、水遣りにも大変気を使い、枯れずに花が咲いたときは一安心しました。また、美化班の活動に場所を提供してくださった西町の中村さん、作業をお手伝いいただいたソフト同好会、宮本自治会の皆様に大変感謝いたします。大会当日には、花岡の町並みに3色の花が咲き誇り、選手団の心を少しは癒したのだと思います。ただ、肥料の量が少なかったためか花の寿命がやや早かった気がしました。



民泊の思い出

調理班長 菊本凉子

おいでませ！山口国体、花岡民泊協力会Bは9月11日の抽選会で、山形県成年女子チームを引き受けることになりました。私たち調理班は婦人会員16名を2班に分け、一日交替で朝、夕の食事作りを担当しました。

朝5時に公民館に集まり、身だしなみを整え7時の朝食に向けて調理にかかります。

夕食は午後4時に集まり、6時30分に間に合うよう、皆で一生懸命「山口の味」のおいしい食事作りに頑張りました。花岡地区はもう1チーム、静岡県を民泊協力会Aが引き受けていて、調理はAとBが一緒に行ってきました。食材購入はA班が一括して調達してくださって、とても助かりました。

ここに至るには、1年前より市による「下松市民泊協力会調理班衛生研修会」や「調理班長会議」が何回か行われ、食中毒を絶対起こしてはいけないと、衛生面をしっかりと勉強してきました。調理実習会も3回行い、マスク、ヘアキャップ、調理場での履物、また、炊事用手袋に至っては、肉、魚、野菜とそれぞれ取り替えて使うよう厳しく指導されたことを思い出します。

4泊5日の食事作りでしたが、お別れ会で山形県の選手の方より「毎日おいしい食事をありがとう！花岡の皆さんによくしていただいて、また来たいです」と言われ、山口のおもてなしの気持ちを伝えることができ、本当によかったです。

調理にお手伝いいただいた婦人会の皆様、また、民泊に係わられた多くの皆様、本当にお疲れ様でした。

民泊の思い出

歓迎班長 藤田典敬

花岡公民館を拠点施設として花岡民泊協力会A、Bが立ち上がったので、花岡民生児童委員協議会と花岡地区社会福祉協議会の計24名で構成されている歓迎班A及びBは、協同して活動することにしました。

歓迎班スローガンを「50年に一度の大イベント、どうせやるなら国体を楽しみ、地域全体で歓迎しよう！」とし、歓迎旗など装飾範囲担当を「駐車場の周辺」「ロビー」「食事会場」「歓迎会会場」「応援」「装飾グッズ作成」の6チーム編成に分割して活動しました。

各チームは「現場でディスカッション」を合言葉に、大工仕事ができる人は歓迎アーチの作製、書道が得意な人は歓迎紙作成と、それぞれの特技を生かした活動をしてきました。装飾グッズ作成にあたってはスローガンどおりに、保育園の園児さん、花岡小学校の児童のみなさん、末武中学校の絵画部のみなさん、公民館講座メンバーの有志の方々を巻き込んで進めてきました。

歓迎会では花岡小学校吹奏楽部、下松星太鼓、そして送別会では地区民話の紙芝居、と地域を挙げての歓送迎は大成功だったと自画自賛しております。歓迎班のスローガンどおり、大馬鹿???になって活動した人も複数いましたが、せんなかったこと、困ったことは全くなく、本当に楽しくやることができました。

そして、選手のみなさんがバスで花岡を離れる時、すべての選手が「この一週間の親切は絶対忘れません!」「花岡に嫁に来ます!!」なんて言って、涙を流して喜んでくれたことは、私たちにとっても一生の思い出(宝もの)になるでしょう。





今回の山口国体で私は初めて民泊を体験しました。最初は不安もあったのですが、民泊地区の方々より強烈な歓迎をうけ、一瞬のうちに不安はなくなりました。民泊家庭の方は勿論ですが、花岡地区の皆様にはとても親切にいただき、私達のことを最優先に考えて下さっているその優しさがうれしかったです。

短い間でしたが、実の娘、家族のように接していただき、過ごした時間は、とても温かく素敵な思い出となりました。初めての民泊が花岡地区で良かったです。

本当にありがとうございました。

山形県バスケットボール成年女子

赤川 愛



民泊の思い出

会長 山内 務

中央地区は、公民館が無く、拠点施設の選定で悩みました。当初はきらぼし館を拠点として、立ち上げたのですが、調理が困難であるため、急遽、下松中学校にお願いしたところ、快く了解いただき、活動を開始することができました。組織づくりもスムーズにでき、調理班の協力者も集い、早くスタートできたことは、良かったと思います。

中学校生徒350人を含む991人が参加した炎天下の学校周辺の清掃作業・体育施設の塗装作業は、大変でしたが、拠点施設が見違えるほどきれいになりました。中学生には、幅10メートルの横断幕2枚も作成していただき、見事な出来栄に感銘しました。

歓迎会は、きらぼし館で、和やかで盛大に行いました。選手と民泊家庭との出会いのシーンは印象的でした。スタッフとも交流でき、皆さんに喜んでもらったことはたいへんよかったと思います。

試合では多くの方に応援をいただきました。3位入賞を果たし、拠点施設の中学校に凱旋した際、全校挙げて選手を出迎えたことは、選手団に感動を与えました。拠点施設が中学校ということで、ハンディを感じていましたが、学生とのふれあいができたことは、大きな収穫でした。

民泊を通じて地域の皆さんとこのように協力し合い、結束できたことは、これからの地域活動に自信と勇気を与えてくれたかけがえのない貴重な経験でした。





民泊の思い出

調理班長 山内津多枝

大変だったけれど、終わってみれば、達成感に満ちた6ヶ月間でした。

まず、藤田まどかさんを始め、素晴らしいスタッフに恵まれたことです。若い人たちに学び、年の功も加わって、お互いともに学んだ楽しい時間を持つことができました。

下松中学校の調理室は、施設器具も新しく、広い調理場で、特に衛生面を考慮して手洗い消毒・野菜洗い・魚肉専用台・食器消毒・調理・配膳に区分して活用でき、作業がスムーズに行き、良かったと思います。ただ、食器の音やおしゃべり、笑い声などで生徒さんに迷惑をおかけしたのではないかとささか心配に思っております。

このたびは、学校側のご協力のおかげで、素晴らしい食事を選手の皆さんに大変喜んで召し上がっていただくことができ、心から御礼申し上げます。

スタッフの皆さんには、無理なお願いやきつい言葉を一方的に申し上げたのですが、快く対処してくださったことに心から感謝し、御礼申し上げます。

素晴らしい出会い、素晴らしい体験に感謝。素晴らしいきらぼし民泊協力会調理班。

がまだせ熊本

応援班長 内山俊雄

「がまだぜ」は、熊本地方の方言で「がんばれ」という意味です。

国体は、47都道府県を持ち回りで開催されます。日本人には、「お互い様」という文化があって、国体にはその助け合いの心が存分に発揮されています。

私たち応援班は、「がまだせ熊本」のパネルを作って、「がまだせコール」を叫びながら、一生懸命熊本チームを応援しました。その甲斐あって、熊本チームは見事3位入賞を果たしてくれました。

お別れ会の席で、熊本チームの皆さんから「がまだせは下松ではなんと言いますか?」と聞かれました。山内会長は、悩んだ挙句、「ぶちがんばれちゃ〜」と答え、お別れ会の締めも「ぶちがんばれちゃ〜」コールとなりました。

いつか熊本で国体の開催があったら、「ぶちがんばれちゃ〜」パネルを山口県選手は目にすることがあるかもしれませんね。



民泊の思い出

宿泊班長 河野利男

先般の山口国体は、民泊家庭を始め、自治会、自治会連合会及び地域関係者（小学校・中学校・公民館・商店街等）にとって一大イベントでした。

特に選手の民泊を引き受けた各ご家庭では、家族の方々の本当に温かいおもてなしで、選手の皆さんも大変満足されたようです。

市実行委員会主催の準備段階での注意事項や保健所のレクチャーを受けたときは、「本当に大丈夫か?」、「やれるだろうか?」と不安がいっぱいでした。

しかし、大会関係者のサポートもあり、何とか無事におもてなしができたことを本当にうれしく、また、引き受けてよかったと思いました。

選手との楽しい交流、地域の方々とのコミュニケーションの輪の広がりなど、この民泊システムの導入は、地域の活性化を促し、大成功だったと心から感じております。

私たちは、この国体で得た経験を自治会活動の発展につなげて行きたいと考えております。大会関係者の方々、本当にありがとうございました！！

民泊を引き受けて本当によかった！！



「感謝」

きらぼし民泊協力会の皆さん、 熊本県選手団を受け入れてくださり、 本当にありがとうございました！

結束力のある、 気合いの入った応援団に後押しされ、 気持ち良くプレイすることができました。 拠点となった下松中学校では、横断幕を作っていたいたり、校舎のいたるところに「熊本県チーム頑張ってください！」と書いたメッセージがはっており、とても励みになりました。校長先生から毎日激励のお言葉をいただいたり、生徒さんからの明るく元気な挨拶で、中学校で試合以外の時間を快適に過ごすことができました。

真心のこもったお食事、毎日美味しくいただきました。早朝からの準備や、遅くまでかかって片付けをされ、かなり大変だったと思いますが、そういう姿を微塵も見せずに、いつも笑顔で迎えていただきました。

また、民泊の受け入れ家庭の方々においても、見ず知らずの私たちを受け入れるのに、若干の抵抗はあったと思いますが、皆さんの心配りにより、温かい家庭で我が家のようにリラックスして過ごすことができました。

山内会長をはじめ、チーム担当の瀬尾さん、新谷さん、きらぼし民泊協力会の皆さん、常に笑顔を絶やさず声をかけていただき、私達の家族のように接して下さりありがとうございました。

皆さんの温かさに触れ、人と人との繋がりを改めて感じる事ができました。素晴らしい思い出を作っていたいたきらぼし民泊協力会の皆さんに出会えたこと本当に感謝しています。

熊本県バスケットボール成年女子

監督 鹿毛美智子



おいでませ!山口国体 感動をありがとう

会長 林 孝昭

東陽民泊協力会を設立し、1年余りの準備期間を経て、9月11日に開催された受入チーム抽選会で「岡山県チーム」を受け入れることが決定しました。

翌日から、各班の連絡会議を開催し、選手の配宿、歓迎会の準備、応援団の結成、お土産の準備と会員の気持ちが一つになり、万全の体制で大会を迎えることができました。

9月30日午後、協力会の熱烈な歓迎に戸惑いながらも選手の皆さんは笑顔で拠点施設の東陽コミュニティーセンターに到着。その日に開催した歓迎会で、既に選手と協力会の一体感を感じることができました。

10月2日の1回戦、是非勝利してほしい!! 応援団の必死の願いが届いたのか見事勝利しました。試合は2回戦で惜敗しましたが、その夜の送別会で時間が経つのも忘れ、夜遅くまで歓談したことは忘れられない思い出となりました。

10月4日午前、岡山へ帰る選手を見送りながら、選手、会員ともに涙している光景を見ているとほんとうに良い触れ合いをしたのだと感じました。

国体を通じて、元気と感動をいただき、そして新しい絆も生まれました。この絆を大切に、今後の地域づくりに繋げていきたいと思います。



美化班の思い出

美化班長 片岡邦夫

東陽地区民泊協力会美化班の仕事始めは、7月28日に行ったプランターへの花の苗の植え付け作業でした。

美化班メンバーは13名で、2丁目、3丁目、4丁目、5丁目の有志の方に参加いただきました。プランターは民泊家庭に各4個配布する計画で、下松市より60個のプランターをいただき、5丁目の花壇の周囲に配置して育てました。途中でサルビアが病気で枯れたり、各家庭への配布準備に入った時に、それまで立っていたマリーゴールドが一斉に横に倒れてしまったりと思わぬハプニングがありましたが、9月29日に各民泊家庭と生活の拠点となった東陽コミュニティーセンターに無事に配布することができました。

選手の受入れ後は、気持ちよく過ごしていただくために東陽コミュニティーセンターの清掃を担当し、10月4日に涙で選手を見送りました。

東陽で民泊された岡山の選手の方々にとって、きっと記憶に残る思い出になったのではないかと美化班一同喜んでいきます。美化班の皆様にはご協力有難うございました。



宿泊班長の思い出

副会長（宿泊班長） 阿部五郎

民泊を引き受けていただく家庭を確保することから活動を始めた。

東陽連合自治会を中心に民泊受け入れ家庭の募集、個別に訪問してのお願いで、予備家庭を含め12軒の民泊引き受け家庭を確保することができた。

選手団の受入れにあたって、拠点施設となる「東陽コミュニティーセンター」の入口には歓迎アーチが設置された。そして、それぞれの民泊家庭でも趣向を凝らした飾付、リース布団の受取、プランターの配置など、岡山県チームを、熱き心とおもてなしの心を持って迎える準備が進められた。

9月30日、待ちに待った選手団が到着し、選手の皆さんが歓迎アーチを目にして、「見て、見て、あれは何…？」と驚きの声を上げ、そして、「お世話になります！」と明るい声で挨拶されたときは、互いに心が開かれた一瞬でした。

歓迎会、試合、送別会まで、あっという間の短いお付き合いでありましたが、民泊家庭では、娘が遠方から帰ってきた思いで接しられ、選手たちは「お母さん、お母さん」とチョッピリ甘え、どの家庭でも、様々なドラマが展開されたようです。

民泊も終え、別れの朝、それぞれの民泊家庭の見送りの中、お互いに、涙、涙、感涙の中「ありがとうございました、お世話になりました」、「元気でネ、頑張るのヨ」、「さようなら」… 一言一言が心に残る別れとなりました。

チームの成績も予想以上の成果を持ち帰られたことで、地元岡山県でもとても喜んでいただけたとのことで、本当によかったと思いました。

国体選手を受け入れて

歓迎班長(民泊家庭) 山下正徳

我が家で国体選手の民泊受け入れの準備を始めたのは、7月に入ってからで、築後30年の古い家であり、天井板、襖の張替えをしたものの、若い選手を気持ち良く、リラックスして過ごしてもらうにはどうすればいいのか・・・。

山口県の手引きでは、とても厳しい決まりがあり困惑しましたが、自分が他家へ泊まった時、“これだけは”と思う事を準備し、選手を迎えました。

彼女達も民泊は初めてのようで、お互いに手探りの状態だったかもしれませんが大変喜んで感謝してくださり、私達も嬉しく思っています。

歓迎班としては、日頃からの良い仲間と、歓迎会、応援、お土産、送別会と手分けしながら準備し、選手の皆さんにも喜んでもらったように思い、最高のパフォーマンスができたものと自負しています。

岡山の皆さんとこうしたご縁ができ、これからも永くお付き合いできればいいと思っています。



民泊受入家庭の思い出

民泊家庭 加藤秀子

今回の民泊のお話があった時は、初めての体験でありとても不安でした。

幸い我が家には空き部屋があり、食事は料理班が作るとのことだったので思い切ってお引き受けしたのですが、当初、民泊という形での国体開催に少し疑問を感じていました。でも、東陽地区が受け入れたバスケット岡山県チームの皆さんとの触れ合い、試合の応援、そして別れを体験して、予想もしなかった充実感を味わいました。

その上、我が家に泊まった二人とはまさに一期一会。民泊を引き受けたからこそ、この出会いがあり楽しい思い出を作ることができたのですから、今ではとても良い経験をさせていただいたと思っています。

また、地域の人達との絆が深まったのも民泊の効果の一つではないでしょうか。

私のささやかな気苦労とは比べものにならないと思いますが、この国体に携わった多くの人々のご苦労に対し、心からお疲れ様でしたと言いたい気持ちで一杯です。



私は今回、初めて民泊を体験した。はじめにスタッフからその報告を受けた時には嬉しいという感情ではなく、不安でいっぱいであったことを思い出す。こんな最高の思い出に出会うことなど、私だけでなくチーム全員が想像していなかった。

私の民泊先は“貞弘さん”のお宅で、貞弘さんの笑顔と温かいお言葉ですぐに不安はどこかに吹き飛んでなくなった。気さくに私たちに心を開いてくださったことで、“貞弘さん”のことを“お母さん”と呼んでしまうほど、本当の家族のように接することができた。何不自由なく試合に臨むことができ、本当に感謝の気持ちでいっぱいである。

最近は何もかもが機械的で、人と人とのつながりが希薄化しているとよく言われる。私も実際にそういう傾向にあったかもしれない。そんな中、今回民泊をして人のぬくもりを感じ、純粋な優しさを感じられたことは本当に貴重な体験であったと思う。

本気で笑って、本気で泣いて、久しぶりにあんなに感激した。いつも目の前にある当たり前のことへの感謝の気持ちや、人と人とのつながりの大切さを改めて感じることもできた。また、こういったことが色々なことの支え・土台になるのだと学んだ。この出会い、経験を大切に、人とのつながりを持つとともに、東陽の方々のような人のぬくもりを多くの人に伝えていけたらと思う。

東陽の皆さん、本当にありがとうございました。

岡山県バスケットボール成年女子

田上理賀



民泊の思い出

会長 田中 豊

私は、山口国体開催の時期にたまたま単位自治会長・地区連合会長として、たまたま民泊協力会の会長となったため、当初は、大変不安でありました。しかしながら、終わってみれば、12の民泊協力会の会長の1人として、生涯2度と体験できないであろうことを達成し、今は喜び、参加していただいたスタッフ全員に感謝しています。（そして、この時期に会長であった自分の運のよさにも感謝しています。）

スタッフには、和を持って活動するようお願いし、「顔と金は出す。口は出さない。責任は取る。」の方針で進めました。

9月30日、緊張の中、東京都代表を迎え、あっという間の5日間でした。当初、試合後そのまま帰省される予定が、もう1泊したいとの申し出があり、その日の夜に盛大な送別会も実施いたしました。送別会では選手団の希望により、ヒラメの刺身を提供しました。（運良く地区内の鮮魚店にキャンセルされた大量のヒラメがありました。）また、優勝祈願のダルマには、今後の活躍を祈念し、目入れを行いました。

10月5日午前、選手たちは、民泊の喜びと感謝で興奮していたように思います。反面私は、何か寂しく、一人ひとりと握手するのが精一杯で、言葉になりませんでした。民泊家庭の皆さんと選手とが、別れを惜しんでハグまたハグ、、、。私もますます寂しさが募り、新幹線が発車すると思わず手を振り必死に走りました。スピーカーからは危険注意の放送。

「状況を理解してくれ！！」





民泊の思い出

調理班長 棟居郁子 内富昌子 高橋芙美子 吉田澄子

私たち調理班は約30名で構成され、何度かの講習と実習を重ね、大会に臨みました。

家庭と違い、神経質と思えるほど衛生面が厳しく、はじめは戸惑いましたが、実習を通じてなれました。班長としては、厨房では皆さんが和気藹々とした雰囲気になるように努力したつもりです。4名の班長は、集合時間が早朝4時で、暗く不安でありましたので、1台の車に相乗りし、福祉センターに入りました。そして、ミーティングと準備の後、その日のスタッフ10名で奮闘しました。選手の食事後、翌日の食料調達と忙殺していましたが、明るく元気な選手たちに乗せられ、あっという間に終わってしまいました。

事前に大食いと聞いていましたが、本当でした。体を使うので、おそらく私たちの3倍ぐらいの量ではないでしょうか。好き嫌いなく残さず食べられるとうれしく、励みにもなり、逆に疲れた私たちが癒されました。

試合観戦に行ったときも、バスケットボールのルールはよくわかりませんが、自分たちもびっくりするくらい、60歳半ばの自分達にこんなにもパワーが残っていたのかと思うほど応援しました。

送別会では、家族のような雰囲気で大騒ぎしました。「下松のお母さ～ん。」と呼ばれ、自然に「は～い。」と返事をするなど、人生後半になって何から何まで、全てが初体験。

今まで、国体はニュース等で知ってはいましたが、運動音痴の自分には、他人事でした。このたび、調理でお手伝いできたことが喜びであり、国体を身近な行事と感ずるようになりました。

西南民泊協力会の役員、実行委員会ともに携わりました調理の皆様大変お疲れ様でした。

民泊を引き受けて

民泊家庭 石丸恵美子

昨年、民泊家庭を引き受けることとしましたが、不安はなく、いろいろと構想が浮かんできました。まず、部屋の模様替え、クロスの張替え、トイレのリフォーム、網戸の新調と、石丸家の形から入るおもてなしがスタートしました。国体が近づく与会合がちょくちょく始まり、資料を入れたファイルもだんだん厚くなりました。我が家の民泊チームが東京都チームと決まると、チームの情報を集めてコミュニケーション作りの参考にしました。その頃テレビの取材も受け、準備にも気合が入ってきました。前日までにのぼりやジャンパーなどが届き、プランターには「ようこそ石丸家へ」、「めざせ優勝」のメッセージを書き込みました。玄関が少し寂しく感じたため、近所の広告屋さんに横断幕を安く作ってもらい、歓迎ムードは全開でした。

いよいよ当日、主人と娘と3人で歓迎会へ出席し、我が家に民泊する2人と対面しました。2人ともスポーツマンとあって、あいさつもコミュニケーションも最高でした。我が家へ帰り、入浴、洗濯、1時間程度の雑談後、就寝といった初日でした。21時に帰宅し、早朝より食事会場へ移動するため、一緒にいる時間は本当に短時間でしたが、だんだんと気心も通じ合い「お父さん、お母さん」と気軽に声をかけてくれるようになり、本当の親子のようにすごせたと思います。試合も目の前で応援でき、優勝はできませんでしたが、選手とひとつになって戦えたと自負しています。

今振り返ってみると、布団のリース、おやつ・果物の配布は本当に助かりました。選手には果物が大好評でした。また、帰宅時間が異なるため、お風呂のお湯が冷めないよう気を使いました。もう少し、民泊協力会との連絡が密に取ればなお、良かったと思いますが、多くのことを経験させていただき、良い記念になりました。48年に1度の国体に参加できたことを幸せに思います。ありがとうございました。

国体が終わっても選手2人とはメールで連絡を取り合っています。いつかまた、再会できることを楽しみにしています。





東京都代表として優勝をめざし臨んだ山口国体@下松市。結果は残念ながら3位…。納得のいかない結果でしたが、下松の方々と心温まる出会いがたくさんありました。

何ヶ月も前から、私たち東京都代表を迎え入れる準備を進めてくれた役員の方。毎食温かい美味しいご飯を作って、心も体も満たしてくれたママ達。毎日チームに帯同してくれた市役所のイケメン!?2人。たくさんお世話して頂いた民泊の方々。本当にありがとうございました。

私と梅澤さんがお世話になったご家庭は上野邸。なんと「お寺」でした。私たちが通された部屋は30畳!!!さすがお寺です。こんな広い部屋を使ったことがない2人は広い部屋の隅っこに仲良く並んでお布団を敷きました。洗濯機も2台あって本当に快適に過ごすことができました。ただ唯一困ったのは夜のお手洗でした。怖がりの2人はトイレを済ませてお布団に入るのですが、どうしても夜中に目が覚めて、トイレに行きたくなるのでした。もう一人が目を覚ますのを待って、懐中電灯を片手に2人で連れ立って毎晩トイレに行きました。この経験があればこれからの人生も怖いものなしですね。

5日間と短い期間でしたが、本当にありがとうございました。今度は山口県に個人的に遊びに行きます!!!

東京都 バスケットボール成年女子

キャプテン 早野光星



民泊の思い出

会長 真楽嘉晴

北地区民泊協力は、昨年11月15日、市内でも最後の結成で出発しました。

まずは、選手の宿泊を受け入れる家庭を確保しなければなりません。「地域内の全ての家庭に宿泊のお願いが届くようにすること」、「自治会長は個別に受け入れができると思われる家庭に伺い、直接お願いする。」ということを決め、あわせて、調理班、美化班、歓迎班など役割を明らかにして動き始めました。

自治会の活動は、年度毎に役員が変わることもあり、活動の引継ぎ、継続性を確保する点が課題でした。

徳島県チームを10月1日に出迎え、歓迎会。2日の初戦で、残念ながら勝利できず、夜には送別会を行い、3日の朝には見送り、と短時間のあわただしい交流ではありましたが、送別会で阿波踊りを教えてもらえたことなど、感激の出会いでした。

せめて、1回戦でも勝利できればと、心残りはありましたが、民泊協力の役割は参加いただいた皆さん方のご協力で果たすことができたものと思います。ありがとうございました。



民泊の思い出

副会長(歓迎班) 藤井実芳

9月30日、会場である保健センターで北地区自治会長と支援者の皆さん32名で歓迎装飾の準備が完了しました。

10月1日、徳島県選手団が15時30分に到着。民泊家庭、調理班、各自治会長70人を出迎え、一旦民泊家庭に帰り、19時から歓迎会を始めました。土田氏の進行で始まり、真楽会長のユニークな歓迎あいさつ、徳島県チームの監督・選手の紹介があり、ジュースで乾杯。アトラクションでは永田さんグループ10名によるハーモニカ演奏、仲良しグループ20名による銭太鼓音頭の演奏をしていただき、選手の皆様にとっても喜んでもらうことができました。1時間の歓迎会の最後には、選手の皆様への激励の意味を込めて、頑張ろう三唱で締めくくりました。

10月2日、試合会場には100名の応援団で参加しましたが、残念ながら、1回戦で敗退。夜は19時から送別会を始めました。会長あいさつの後、監督さんから試合結果を聞き、ビールで乾杯し、70人の参加者で大騒ぎ、笑い声で、楽しいひとときを過ごすことができました。最後に徳島県の阿波踊りを選手と民泊協力がいっしょになって踊り、あっという間に2時間が過ぎました。

10月3日、9時に集まり、見送りをしましたが、涙々でなかなか別れづらく、出発は10時30分に。国体には多くの時間と労力を注ぎましたが、忘れられない思い出と多くの感動をいただきました。



民泊を引き受けて

民泊家庭 清木賢人

昨年の秋、町内会の会合で国体での民泊受入の話があり、引き受けることとした。

9月には徳島県チームの受入れと民泊される選手も決まり、インターネットでチームや選手のことを調べ、来松を心待ちにしていた。

10月1日にチームの歓迎会、翌日には、岡山県との試合があり、家族で応援に行った。試合は惜敗し、初戦敗退となったが、試合における選手の歓迎会のときとは打って変わった俊敏な動きと闘志あふれる姿を目の当たりにし、さすが、国体出場チームだと思った。

試合当日の夜、選手への慰労会と送別会が行われ、和気藹々の雰囲気の中で、いっしょに阿波踊りを踊り、交流を深めることができた。

翌日、選手の見送りには、近所の人も来て別れを惜しんだ。夜に選手からお礼の電話があり、数日後にはお礼の手紙も届き、大変感激した。

今回、貴重な体験をすることができ、本当に民泊を引き受けてよかったと思う。

民泊を終えて

山本達成・香

48年ぶりに開催された山口国体にかかわることができ、本当にありがたく思っています。

私たちの子ども2人が今までもこれからも周りの方々にお世話になり、成長させていただいたことに対する感謝の気持ちを何かに恩返しすることができたらの思いから、自治会の回覧で民泊のことを知り、申込させていただきました。日が近づくにつれ、不安もありましたが、北地区民泊協力会の皆様のご指導のもと楽しく終えることができました。

徳島県チームの方とは、2泊3日の短い時間ではありましたが、歓迎会でのなれない恥ずかしさ、北地区一丸となった初めてのバスケットボールの試合の応援、送別会での選手の皆さんと踊った阿波踊り、お見送りのときの寂しさなど忘れられない思い出となりました。我が家に民泊されたお二人のメールには感謝の気持ちが綴られており、再会を約束し、うれしく思いました。

今後は、この貴重な思い出と感動を我が子に伝えていき、次の山口国体にかかわってみたいと願うばかりです。

本当に関係者の皆様には、無事終えられたことに感謝申し上げ、こうして出会えたご縁をこれからも大切にしていこうと思います。

合掌



民泊の思い出

民泊家庭 宮田二美

民泊を引き受けたものの、打合せの際の留意事項や24項目にも及ぶ衛生自主管理など、はたして、選手に喜んでもらえるのだろうか、不安だった。あと7日、あと3日と迫り、自分のことは後回し。民泊のため家の中はもちろんのこと周辺美化もあり、気が焦る日々だった。

10月1日、颯爽と歩いてきたあの若々しい選手団一行を迎えた印象は今も胸に焼きついている。明朗で気さくな沙耶香さんと理恵さんに元気をもらい、ハッスルしたものだ。

「おばあちゃん風邪をひかないで、、、。」と慕われ、孫が2人増えたような楽しい2晩だった。

バスケは、10年以上も孫が励んできた競技で、孫が全国大会や中国大会に出場したときの写真を見ながら、興味深く「うん、分かる。すごい。」と笑顔で耳を傾けてくれた。

試合は必死で応援したが、残念ながら1回戦で負けてしまった。来年の国体で頑張ることを約束した。

送別会では、全員で、和気藹々の中、阿波踊りを踊って、再会を願い、別れを惜しんだ。



山口国体期間中は大変お世話になりました。歓迎会で工夫を凝らした数々の催しに感激し、地域の方と楽しく交流したこと、送別会で阿波踊りを照れながら踊ったことが昨日のここのように思い出されます。

各民泊家庭では家族のように接していただき、万全の態勢で試合に臨むことができました。選手は先日も民泊家庭の方との思い出を笑顔で語っていました。温かな雰囲気を作ってくださったことに本当に感謝しています。

開催前からの準備、早朝の食事準備、民泊家庭の準備、その他私たちが気付かない点にまでお心遣いをしていただきました。このような北地区の方々への心こもった数々のおもてなしにより、人と人とのつながりの温かさや、大切さを実感しました。

この出会いは私たちの宝物となりました。

いつの日か山口の家に帰れることを楽しみにしています。その時はまたよろしくお願いいたします。

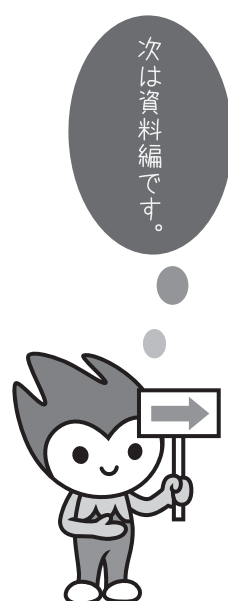
本当にありがとうございました。

徳島県バスケットボール成年女子

マネージャー 寺坂明子

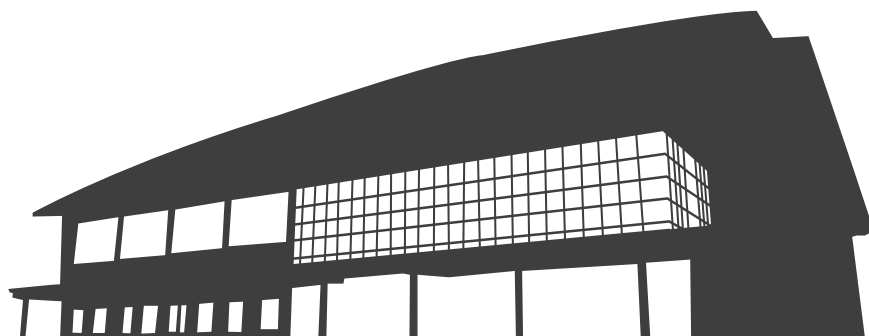


絆の大切さをあらためて感じさせてくれた民泊に感謝！



キラめき くだまつの宿

資料編



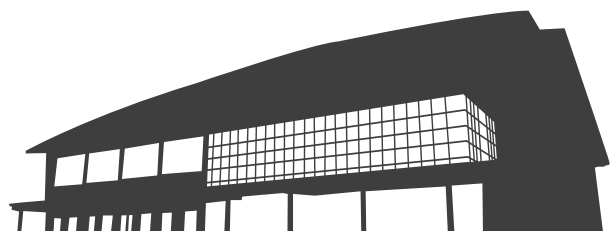
民泊協力会名	民泊拠点施設	会長名	設立年月日
下松市中村地区	中村総合福祉センター	磯村 寿夫	平成22年4月23日
米 川	米川公民館	藤井 俊則	平成22年5月31日
末武地区	末武公民館	清水 芳則	平成22年6月9日
笠戸島 連合自治会	笠戸島公民館	辻 國政	平成22年6月14日
とよい	豊井公民館	清木 健一	平成22年6月15日
久 保	久保公民館	木本 芳樹	平成22年6月24日
花岡 A	花岡公民館	守政 男	平成22年6月24日
花岡 B	花岡公民館	守政 男	平成22年6月24日
きらぼし	下松中学校	山内 務	平成22年7月30日
東 陽	東陽コミュニティーセンター	林 孝昭	平成22年9月7日
西 南	下松福祉センター	田中 豊	平成22年10月7日
北 地 区	保健センター	真楽 嘉晴	平成22年11月15日

チーム担当者

氏 名	協 力 会 名	受入チーム
中田 量寄	下松市中村地区民泊協力会	新 潟 県
中村 一雄	米川民泊協力会	愛 媛 県
角 和浩	末武地区民泊協力会	愛 知 県
小林 洋之	笠戸島連合自治会民泊協力会	山 口 県
桑島 洋明	とよい民泊協力会	兵 庫 県
井内慎一郎	久保民泊協力会	北 海 道
瀬来 輝夫	花岡民泊協力会A	静 岡 県
金近正太郎	花岡民泊協力会B	山 形 県
瀬尾 悟史 ・ 新谷 大輔	きらぼし民泊協力会	熊 本 県
森藤 孝典 ・ 田中 剛	西南民泊協力会	東 京 都
阿部 隆一 ・ 國廣 雅信	東陽民泊協力会	岡 山 県
高橋 健悟 ・ 高谷 憲和	北地区民泊協力会	徳 島 県

民泊実施状況一覧

民泊協力会名	受入チーム	9/29 (木)	9/30 (金)	10/1 (土)	10/2 (日)	10/3 (月)	10/4 (火)	10/5 (水)	延べ人数	宿泊日数	民泊家庭数
下松市中村地区	新潟県	15	15	16	16				62	4	8
米川	愛媛県			14	12	11			37	3	8
末武地区	愛知県			17	17	18	18	15	85	5	9
笠戸島 連合自治会	山口県		17	17	17				51	3	8
とよい	兵庫県			16	16	16			48	3	8
久保	北海道			15	15	15			45	3	9
花岡 A	静岡県		12	13	13	13	13	13	77	6	7
花岡 B	山形県		15	15	14	15			59	4	8
きらぼし	熊本県		16	16	16	16	15		79	5	8
東陽	岡山県		13	16	17	17			63	4	9
西南	東京都		14	14	14	14	13		69	5	7
北地区	徳島県			16	16				32	2	8
合 計		15	102	185	183	135	59	28	707	47	97



年月日

経過概要

平成19年	12月18日	秋田国体能代市・三種町開催競技事業概要説明会
平成20年	1月11日	第1次仮配宿に係る市町ヒアリング
	10月2日～10月5日	チャレンジ！大分国体 民泊視察（宇佐市）
平成21年	3月17日	第1回民泊連絡会議（山口市）
	5月29日	おいでませ！山口国体 下松市実行委員会第1回常任委員会 （宿泊基本計画及び宿舎確保推進要項策定）
	8月17日	客室の提供及び宿泊施設実態調査
	8月24日	第2回民泊連絡会議（山口市）
	11月25日	第1回宿泊衛生専門委員会（民泊実施要項策定）
平成22年	2月22日	末武地区民泊説明会
	2月25日	第2回宿泊衛生専門委員会 （民泊協力会交付金交付要項 及び民泊協力会連絡会会則策定）
	4月13日	中村地区民泊説明会
	4月23日	下松市中村地区民泊協力会設立



年月日

経過概要

平成22年

4月24日

笠戸島地区民泊説明会

4月28日

米川地区民泊説明会

4月30日

豊井地区民泊説明会

5月11日

久保地区民泊説明会

5月14日

花岡地区民泊説明会

5月31日

米川民泊協力会設立

6月3日

久保地区民泊説明会

6月8日

久保地区民泊説明会

6月9日

末武地区民泊協力会設立
中央地区民泊説明会

6月14日

笠戸島連合自治会民泊協力会設立

6月15日

とよい民泊協力会設立



6月24日

久保民泊協力会設立
花岡民泊協力会A設立
花岡民泊協力会B設立



年月日

経過概要

平成22年

6月26日

南地区民泊説明会

7月22日～23日

平成22年度花いっぱい運動資材・苗配布（8民泊協力会）

7月29日

中央地区民泊説明会

7月30日

きらぼし民泊協力会設立

8月3日

末武地区民泊協力会説明会

8月27日

花岡民泊協力会説明会

9月5日

東陽地区民泊説明会

9月7日

東陽民泊協力会設立

10月1日

民泊サミット（千葉市）

10月7日

西南民泊協力会設立

10月20日

笠戸島民泊協力会説明会

10月26日

拠点施設衛生調査

11月15日

北地区民泊協力会設立

11月18日

第3回宿泊衛生専門委員会
（山口の味普及交付金交付
要項策定・民泊協力会への支給物品決定）

11月25日

おいでませ！山口国体「山口の味提供」
下松市民泊協力会調理班指導員養成研修会

年月日

経過概要

平成22年

11月30日

とよい民泊協力会説明会

12月15日

第1回下松市民泊協力会連絡会（各民泊協力会に委嘱状を交付）



平成23年

1月31日

第1回下松市民泊協力会連絡会調理班長会議開催

2月4日

米川民泊協力会説明会

2月19日

久保民泊協力会説明会

2月24日

第4回宿泊衛生専門委員会（民泊推進大会実施決定）

2月25日

末武地区民泊協力会説明会

3月17日

第2回下松市民泊協力会連絡会（会長に磯村寿夫氏）

4月13日

下松市民泊協力会調理班衛生研修会
（第2回下松市民泊協力会連絡会調理班長会議）
於 地域交流センター やまももホール 講師 野村恭晴氏

5月30日

第3回下松市民泊協力会連絡会

6月7日

下松市の民泊の愛称を”キラめき くだまつの宿”に決定

6月14日

下松市民泊協力会連絡会美化班長会議



年月日

経過概要

平成23年

6月15日

下松市民泊協力会連絡会歓迎班長会議

7月2日

下松市民泊推進大会 於スターピアくだまつ 展示ホール
 (民泊家庭に委嘱状交付)
 記念講演 「民泊まであと20日！」 講師 塔本素万氏



7月11日

下松市民泊協力会連絡会宿泊班長会議
 基調講演 「民泊を体験して」 講師 福田愛子氏

7月12日～26日

花いっぱい運動資材・苗配布

8月1日

井戸水利用家庭水質検査

8月6日

民泊家庭研修会 於 地域交流センター やまももホール
 講師 木本孝志氏 國富和美氏

8月16日

チーム担当者説明会

8月18日

第3回下松市民泊協力会連絡会調理班長会議

8月23日

井戸水利用家庭水質検査 (追加)

8月27日

炬火リレー (各民泊協力会から1～4名参加)

8月29日

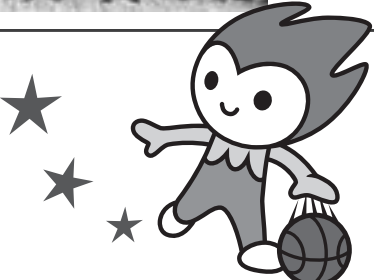
第4回下松市民泊協力会連絡会

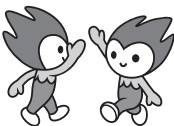
9月1日

調理班員検便検査

年月日

経過概要

平成23年	9月10日	組み合わせ抽選会 於 東京
	9月11日	受入チーム抽選会 於 下松市立図書館 支給物品、大分国体の看板を配布 
	9月26日～9月27日	市長民泊協力会激励（12協力会）
	9月26日～9月29日	リース寝具・リース物品の配布（各民泊拠点施設）
	9月29日～10月6日	民泊の実施
	9月30日～10月1日	岐阜県揖斐川町・長崎県視察受入
	10月20日	民泊協力会感謝状贈呈式 
	12月16日	後催市町村への民泊事業 概要説明会 於 防府市 



トーナメント表

日程	10/2 (日)	10/3 (月)	10/4 (火)	10/5 (水)	10/4 (火)	10/3 (月)	10/2 (日)	日程
都道府県名	1 回戦	準々決勝	準決勝	決 勝	準決勝	準々決勝	1 回戦	都道府県名
東京都 (西 南)		58				64		兵庫県 (とよい)
山口県 (笠 戸 島 連 合 自 治 会)	61		75		63		73	新潟県 (下松市中村地区)
山形県 (花 岡 B)		46				78		静岡県 (花 岡 A)
	65						95	
愛知県 (末武地区)	84						58	徳島県 (北地区)
		66						岡山県 (東 陽)
愛媛県 (米 川)							89	
	54							熊本県 (きらぼし)
北海道 (久 保)		55						
			79		58		76	
優勝 愛知県 7年ぶり11回目								

全試合詳細

対戦カード	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
山口県 vs 山形県 【1 回戦】	12-12	21-10	17-25	11-18	61-65
新潟県 vs 静岡県 【1 回戦】	19-24	11-22	23-24	20-25	73-95
愛知県 vs 愛媛県 【1 回戦】	25-13	17-19	18-13	24- 9	84-54
徳島県 vs 岡山県 【1 回戦】	16-26	15-12	5-33	22-18	58-89
東京都 vs 山形県 【準々決勝】	11-14	20-12	15-10	12-10	58-46
兵庫県 vs 静岡県 【準々決勝】	17-14	13-23	18-24	16-17	64-78
愛知県 vs 北海道 【準々決勝】	16-12	18-10	18-15	14-18	66-55
岡山県 vs 熊本県 【準々決勝】	18-18	11-16	15-24	14-18	58-76
東京都 vs 愛知県 【準決勝】	21-19	16-20	19-20	19-20	75-79
静岡県 vs 熊本県 【準決勝】	8-16	25-12	8-15	22-15	63-58
愛知県 vs 静岡県 【決 勝】	26-16	12-16	22-21	18-14	78-67

編集後記

下松市では、初めてとなる共同民泊。事務局も手探りで作業でした。民泊協力会の皆さんも不安の中での準備活動だったことと思います。

しかし、地域の力はすごいもので、選手が来松される直前には、事務局の予想と期待を遥かに超えるおもてなしの準備をされていました。地域が一丸となって作り上げることのすばらしさを実感し、そして、感動しました。

国体後には、民泊協力会や民泊家庭の皆さんから「やってよかった。」「元気をもらった。」「感動した。」といった感想をたくさん寄せていただきました。私たちもこの国体に携われたこと、下松市で民泊が実施されたことを本当に光栄に感じています。

最後になりましたが、“キラめき くだまつの宿”に携わった多くの皆さん、思い出文を寄稿してくださった方、写真を提供してくださった方に心より御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

おいでませ！山口国体下松市実行委員会事務局



2012年2月1日 発行

発行 おいでませ！山口国体下松市実行委員会

編集 おいでませ！山口国体下松市実行委員会事務局



キラめき
くだまつの宿